

CSRの取り組み

ブラザーグループは、信頼され、未来永劫に繁栄し続ける企業を目指し、長期的な視野に立ってグローバルなCSR経営を積極的に推進します。



INDEX

対談:まあるい地球で、共に支え合い、新たな成長を	1
■ブラザーグループのCSR	7
ブラザーグループのCSR経営	8
コーポレートガバナンス	9
内部統制	11
コンプライアンス	12
情報セキュリティ	13
各地域のCSR課題	14
CSR・ブランド戦略	19
第三者意見	21
■お客様とともに	23
お客様第一の製品開発	24
安全・安心な製品設計	26
お客様ご迷惑率の低減	27
物流・販売・サービス体制	28
■従業員とともに	30
多様な人財の確保	31
多様な働き方の支援	34
各地域での人財育成	36
グローバル人財育成	37
労働安全衛生	39
グローバル憲章の共有	42
従業員の「誇り度」向上推進	44
■ビジネスパートナーとともに	46
CSR調達の推進	47
お取引先の声	49
■株主とともに	51
IRコミュニケーション	52
外部からの評価	53
■地域社会とともに	54
グローバルな社会貢献活動	55
日本での社会貢献活動	57
米州での社会貢献活動	59
欧州での社会貢献活動	60
アジア・オセアニアでの社会貢献活動	63
中国での社会貢献活動	64

報告の範囲:ブラザー工業株式会社および国内・海外グループ会社
 対象期間:2010年4月1日～2011年3月31日、およびWEB公開(2011年7月28日)までの重要事項
 参考にしたガイドライン:GRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン第3版」

対談:まあるい地球で、共に支え合い、新たな成長を



ブラザーが「成長への再挑戦」に向けて、新中期戦略「CS B2015」を打ち出した2011年3月、東日本大震災が発生しました。こうした中で、国際自然保護連合(IUCN)の親善大使も務めるイルカさんをお招きし、ブラザー工業社長 小池利和とともに持続可能な社会やブラザーのCSR経営について語り合いました。

東日本大震災で被災された方々に寄せて

小池：まず、3月11日の東日本大震災で被災されたみなさまに、あらためてお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

あの時、私は名古屋の本社で大きな揺れを感じました。ゆっくり長く揺れたので、震源が近くでないとすれば大地震だろうと直感したんですが、大変な事態になってしまいました。ブラザーグループでは直接の人的被害はなかったものの、東北・関東地域にあるグループ会社エクシングの店舗や部品を供給いただいているお取引先の一部が被災されました。当面、義援金の拠出をはじめ国内外のグループ会社の従業員による募金や支援物資の提供、被災地のブラザー製品の無料修理サービス、ブラザー製品の被災地支援団体への無償供与など、できる限りの支援をさせていただいています。私どもは売上の8割近くが海外で、生産も8割以上が海外であるため、ビジネスへの影響は少なくすみましたが、被災地の復興には長期間を要するため、継続的に支援・ボランティア活動を行っていくことが重要と考えています。

対談:まあるい地球で、共に支え合い、新たな成長を

イルカ：こういう時は、みんなが心を一つにしなければなりませんからね。私は、その日は東京にいて、とっさに机の下に潜ったんですが、身体が横にずれるような揺れでした。テレビをつけたら信じられない光景が目に見え込んできました。私は歌うことしかできない人間なので、あの日から「歌の力で復興のお手伝いを」と思っているんですが、まだ被災地の方々がそんな気持ちに至っていないのではと感じています。押し付けがましいことだけは、してはいけないと考えているので、近い将来、ご縁があるに違いなく、その時は喜んでお手伝いさせていただきます。それまではコンサート会場に募金箱を置かせていただいたり、デビュー40周年記念パンフレットの売上の全額を義援金にさせてもらったりしています。また、今年のツアーを震災復興支援コンサートとして、副題で「共に生きる・・・この時を」というメッセージを添えて、私の気持ちを曲にして、少しでもホッとしたり元気になったりしていただけるようなツアーを続けています。できればこの秋くらいから、被災地の皆さんをコンサートにご招待して一緒に歌ったりしていきたいですね。



小池：なるほど。私は6年前から従業員向けに「テリー※の徒然日記」という社内ブログを週2回発信していますが、もうすぐ連載500回を迎えます。そこで、「テリーの絆プロジェクト」という従業員参加型の企画を立ち上げました。これは参加費を出してくれた従業員に、自筆の文字とブログのイメージイラストをあしらった自費制作の「500回記念チャリティーTシャツ」を配布して、参加費の全額を被災地に義援金として贈ります。イルカさんのパンフレットとまったく発想が同じですね。

イルカ：偶然にも、同じですね。私の場合は、コンサート会場によっては募金箱を置かせていただけない所もあって、どうかと考えた時に「物として買っていただき、それを義援金として贈ろう」とパンフレットを思いついたんです。もちろん募金もありがたいですが、もう一つ自分らしさをお届けしたいなと。

小池：支援活動は「無理のない程度に、継続的に自然に」が基本だと思います。無理をすると息切れしてエンストしてしまうし、自分が100%納得していないと長続きしない。従業員にも「ボランティアや社会貢献活動は、無理なく自然にやれる範囲で、できることを」と言っています。

イルカ：同感です。「私もやりたい」という衝動でやらせていただいて、それを実現することで自分も恩恵をいただいている。それで十分だと思うし、見栄を張って何かをやっても方向性が変わってしまいます。もちろん、それで助かる方もいらっしゃいます。が、私は「微笑みながら、できる範囲で長く続ける」というのが、自分にとって正しい方向だと思っています。

※テリーは小池のアメリカ駐在時代のニックネーム。ブラザーの社内では、いまでも親愛の情を込めて「テリーさん」と呼ばれている。

地球に住む同じ仲間としてより良い環境を

小池：昨年10月、名古屋で「COP10(生物多様性条約第10回締約国会議)」が開催されましたが、イルカさんは国際自然保護連合(IUCN)の親善大使として、ずいぶん前から国内外でPR活動や生物多様性への理解を深めるコンサート、CDや絵本の出版などで貢献されましたね。

対談:まあるい地球で、共に支え合い、新たな成長を



イルカ:3年ほど前、IUCNから「生物多様性という言葉が難解なので、多くの世代に分かりやすい形でアピールしたい」とお話があり、「それならCDを作って、コンサートもやりましょう」と提案しました。また、私は絵本も描いているので、小さなお子さんのために「生物多様性をテーマにした絵本もいいのでは」と出版社に話を持ち込みました。それが「まあるいいのち」という絵本になりました。

小池:ブラザーグループも会議の主旨に賛同し、「COP10」参加者向けインターネットコーナーへのプリンターの提供や、プリンターメーカー6社共同での「インクカートリッジ里帰りプロジェクト」の一員としてのブース出展、国連環境計画(UNEP)への寄付などを行いました。会議では、生物の持つ遺伝資源の利益配分ルールを定めた「名古屋議定書」と、2010年以降の目標「愛知ターゲット」が合意されるなど大きな成果が得られました。それから、私は期間中に名古屋で行われたイルカさんの「まあるい地球コンサート」も拝見しました。

イルカ:それは、ありがとうございました。IUCN本部とは会議中にコンサートを開く約束をしていましたし、「連日の会議で大変なので、音楽で頭を休めたい」と50名以上来てくださったので「ああ、コンサートを開いてよかったな」と思いました。それにしても、ブラザーグループは熱心に環境問題に取り組まれているんですね。

小池:ええ、以前から環境社会貢献の一環として、世界各地の従業員ボランティアが、植林活動やマングローブ林の保護、ウミガメの生態系調査への協力などを続けています。2010年5月に、こうした活動も含めて、モノ創りをはじめ事業活動のすべてを含むグローバルな環境への取り組みのシンボルとして「Brother Earth」というスローガンを制定し、これに基づいて2015年に向けた中期環境行動計画の達成に重点的に取り組んでいます。

また、クリック募金を組み入れたWEBサイト「brotherearth.com」では、グループ各社が各地域で取り組んでいる環境保護活動を紹介しています。皆さんが共感する活動をクリックいただくと、その数に応じて皆さんに代わってブラザー工業が活動に寄付する仕組みで、7カ国語で運用しています。

ただ、「COP10」のような生態系を守るという大きな課題は、一企業がどの程度まで関われるのか分からない点が多く、イルカさんのご経験から「ブラザーがこんなことをやるといいんじゃないか」ということを教えていただけるとありがたいです。

イルカ:実は、IUCN・世界銀行・地球環境ファシリティ※の三つの国際機関が手を結んで、大規模な生物種の保存基金「SOS (Save Our Species)」というプログラムを立ち上げて、協力してくれるパートナー企業の参加を呼びかけています。このプログラムへの貢献は、生物多様性を保全するグローバルリーダーとして世界にアピールできますから、企業のイメージアップにもつながります。

小池:なるほど。生物多様性保全に関わる課題の中で「この国のこんな保護活動への協力を」とご提案をいただけると、グループ各社の従業員も意義が理解しやすいですね。微力ながら活動支援に参加するのは、グローバル企業として成長していく重要なステップになると思います。

イルカ:2011年は「国際森林年」でもあり、IUCNの活動は森林保護に関係するのはもちろん、私たちがふだん使っている「紙」とも密接に関わっています。これに関するシンポジウムも各地で行われています。私は「ブラザー」という社名に好印象を持っていて、それは私がメッセージとして発信している「ひとつの地球に住む生き物は、共に生きる兄弟」という考え方に通じるからです。それに「Brother Earth」というキーワードのもとで、地球に生きているみんながつながっているという考え方で活動されているのは、とてもありがたいことです。

※地球環境の利益につながる各国の取り組みに資金と技術的支援を提供している世界最大級の国際基金。

対談:まあるい地球で、共に支え合い、新たな成長を

困難を乗り越えて新たな成長に挑戦

イルカ: 私の世代にとって“ブラザー”といえば、いまだにミシンのイメージが強いのですが、若い世代に言わせると複合機やプリンターのメーカーであると。ずいぶん変わりましたね。

小池: はい。企業が未来永劫にわたって持続的に成長するには、変わり続けなければなりません。ブラザーは創業103年目ですが、数十年ごとに試行錯誤しながらビジネスの柱を変革して、新たな成長へつなげてきました。もちろん経営的に苦しい時期もありました。近年では2008年のリーマン・ショックの影響で、売上高1兆円を目指す中長期戦略ビジョンの時間軸を延長せざるを得ませんでした。各事業がグローバルに経営環境に左右されにくい安定した事業基盤づくりをするとともに、利益・キャッシュの確保に取り組み、将来の成長に向けた準備を進めてきました。



そこで、次の段階として、2011年3月に新中期戦略「CS B2015」を発表しました。ここでは「Back to Growth ～成長への再挑戦～」というテーマで、2015年を目標に全事業・全地域で成長を目指します。その推進力が、開発、製造、販売・マーケティング、人財、CSR・ブランドなど各分野の「真のグローバル化への加速」です。

幸い、ブラザーは製造や販売の海外進出が早かったためコスト競争力があり、品質の良い製品を世界中にお届けするネットワークが整っています。また、長い歴史の中で育った人財・ノウハウもあります。この強みを磨き上げることで、お客様のご要望に応えるベストな製品をベストな場所で製造し、グループ会社の相互協力による“グローバルチーム・ブラザー”の真価が発揮できます。それを「明るく、楽しく、元気に」推進して、「ブラザーグループ グローバル憲章」にある「あらゆる場面でお客様を第一に考え、モノ創りを通して優れた価値を創造し、迅速に提供する」という使命を実現できると考えています。

イルカ: 地球規模でそれだけのビジネスを展開するのは、すごいですね。ふつう、一つのことで成功すると、それにしがみついて生きていこうと考えるのが人間の常ですが、次世代を見つめながらブラザーらしさを広げていく。そういう方向性を決めるのは、すごく大変なことだと思います。歌手やアーティストと呼ばれる人たちも「常に時代の波に乗って…」なんて言われますが、毎年、大ヒットが続くものじゃないですから、ほかの分野に転身する方もいらっしゃる。そんな中で、自分らしさを将来につなげていくには、世の中にアンテナを張っていると同時に、自分の中の柱というか、核のようなものをブレさせないことが大切ですね。

小池: おっしゃる通り、企業もまったく同じだと思います。

イルカ: 私はフォークやニューミュージックという音楽ジャンルで歌を始めましたが、バブル時代など危機を感じた時期がいくつもありました。人はお金持ちになると、生活にあまり密着しない、派手なモノが好きになりますね。ディスコ的な音楽が主流の時代には、「ギター1本で歌うのは辛気くさい」と言われる時もあった。お客様にコンサートに来ていただくのに苦労した時代がありました。でも、いまもしぶとく続けていられるのは、「自分の中に持っているものだけは曲げないぞ」という頑固さと、時代を泳ぐしなやかさの両面を大切にしてきたからかもしれません。これから先、どれだけ歌い続けられるかは分かりませんが、そういう姿は買きたいですね。また、そうやって歌う姿を息子たちのような次の世代につなげていけたらと思います。

小池: 私たちも、いま種蒔きした事業の芽が5年先10年先に育って若い人たちに受け継がれ、同じ「ブラザー」という名前だけけれど、事業の内容は変わっていると、新しい業態で進化を遂げているという姿を目指してチャレンジしているわけです。

対談: まあるい地球で、共に支え合い、新たな成長を

一人でも多くのお客様から拍手をいただけるように

小池: イルカさんの歌は、昔から聴かせていただいています。私は年齢も近く、フォークソングに熱中した世代なので、高校時代にフォーク・クルセダーズで衝撃を受け、かぐや姫が出てきた頃に大学に入り、卒業の頃にイルカさんの「なごり雪」が大ヒットしました。

イルカ: そういうふうな人生の中で、私の歌を語っていただけるのは、ありがたいことです。

小池: 40年間も休みなしで第一線を走り続けて、いまでもコンサートを年間60～70回もこなしていられるのは、ほんとうにすごい。

イルカ: ただ、出産前後の2年間は「イルカの冬眠」ということで休ませていただきました。でも、プロデューサーの夫が、ただでは休ませてくれない人だったので、その間も絵本を描いたり、クリスマスアルバムを作ったり創作的なことをしていました。そういうテリーさんも全力で走り続けていられる。

小池: これだけ変化の速い時代なので、企業のトップは常に誰よりも早く、多くの新しい情報に触れながら、これまでの経験や知識と重ね合わせて、迅速にタイミング良く、正しいと思われることを次々に決めていかなくてはなりません。私はジッとしていると疲れてしまう性分なので、週末もビジネスのことが頭から離れることはないのですが、社内ブログ用の話題集めも兼ねて、好奇心に任せてあちこち動き回っています。

誰の人生にも平等に与えられているのは時間なので、その中で充実して生きるには、いろんなことに好奇心を持って、「明るく、楽しく、元気に」生きることが重要だと思っています。そうすれば、運命の神様も、きっと振り向いてくれるだろうというのが私の信条です。



イルカ: 私は、コンサートの後に必ず握手会をしますが、中には深刻な病気を抱えている方もいらして「今日は1年ぶりに外出して、コンサートで元気になりました」「明日から頑張れそうな気がします」と言ってくれるのが、私にとって一番うれしいことなんです。確かに、歌というのは5分間とか3分間の中で、人の心をパッと開かせたり、気持ちを一瞬で回らしたりする力を持っています。私も夫を亡くした時は歌う気になれず、ジッとしていようと思いましたが、そんなわけにもいかず、少しずつ歌い始めたら逆に元気になりました。しかも、お客様に拍手をいただけるなんて、ありがたい仕事だと感じています。これからその恩返しをしていかなくてはと、一人でも私の歌を聴きたいという人がいたら、どこへでも行って歌いたいと思っています。

小池: いいお話ですね。ブラザーグループも、“At your side.”の精神を発揮して、たくさんのお客様から拍手をいただけるような製品やサービスをお届けする企業であり続けたいし、多くの従業員に力を与え、誇りを持てるようなマネジメントを実践していきたいと思います。今日は、ありがとうございました。

2011年7月

対談: まあるい地球で、共に支え合い、新たな成長を



ブラザー工業株式会社 代表取締役社長

小池 利和

■プロフィール

1955年、愛知県一宮市生まれ。早稲田大学政治経済学部を卒業後、1979年にブラザー工業に入社。1982年、ブラザーインターナショナルコーポレーション(U.S.A.)に出向。タイプライターやミシンなどが主力商品の時代に、プリンターの試作機を持って全米各地をセールスし、ブラザー情報通信機器の基盤を開拓。2000年に同社取締役社長に就任し、2005年に帰国。2007年から現職。愛称は「テリ」。社内ブログで、社長メッセージから身近な体験まで幅広く発信している。趣味は、ワイン・音楽・ハイキング・歴史探訪・ゴルフ・スポーツ観戦・将棋と多彩。iPodにフォークソングから最新のヒット曲まで9,000曲を入れ、時間が許す限りコンサートにも出かける。モットーは「明るく、楽しく、元気に」。

■対談お客様



シンガーソングライター・国際自然保護連合(IUCN)親善大使

イルカさん

■プロフィール

東京生まれ。父は日本のジャズ史を飾るバンド「スターダスターズ」の花形テナーサックス奏者。女子美術大学に在学中からフォークグループを結成し、シュリークスを経て1974年 ソロデビュー。翌年『なごり雪』が大ヒット。以降、『君は悲しみの』(76年)『雨の物語』(77年)『サラダの国から来た娘』(78年)など次々にヒットを飛ばし、シンガーソングライターの地位を確立。生命保険会社のCMソングとして依頼された『まあるいいのち』(80年)は、命の大切さを伝える名曲として歌い継がれている。1978年に出産のため2年間休業し、活動再開後もコンサートを中心に毎年全国ツアーを続けている。また、絵本『ちいさな空』『真冬の天使』やエッセイなどの作品を通じて、母親としての視点から「私たちは、皆この地球という大きな生き物に住む、細胞同志である」というメッセージを発信し、世代を超えて多くの人々の共感と呼んでいる。2004年に国際自然保護連合(IUCN)初代親善大使に任命され、2010年には母校の女子美術大学芸術学部でアートプロデュース表現領域の客員教授に就任。

ブラザーグループのCSR



ブラザーグループは、ブラザーグループグローバル憲章」の浸透を通じて、すべてのステークホルダーから尊敬され、従業員にとって心の底から「誇りの持てる企業」となることをめざします。

ブラザーグループのCSR経営

- ・すべてのステークホルダーから信頼され、従業員にとって誇りの持てる企業を目指して

内部統制

- ・体制の整備と継続的なレベルアップ
- ・地域統括会社と連携し内部監査を実施

情報セキュリティ

- ・情報を適正に管理・保護するために
- ・情報リスク対応の強化策を推進

CSR・ブランド戦略

- ・「グローバルCSR・ブランド戦略会議」を開催
- ・中国でブランドイメージの統一活動を強化

コーポレートガバナンス

- ・ブラザー工業のコーポレートガバナンス体制
- ・リスクマネジメント

コンプライアンス

- ・コンプライアンス体制
- ・コンプライアンス ハンドブックを発行

各地域のCSR課題

- ・2010年度の課題と実績・2011年度の課題

第三者意見

- ・ブラザーグループの2010年度のCSRへの取り組みに対する第三者意見

ブラザーグループのCSR

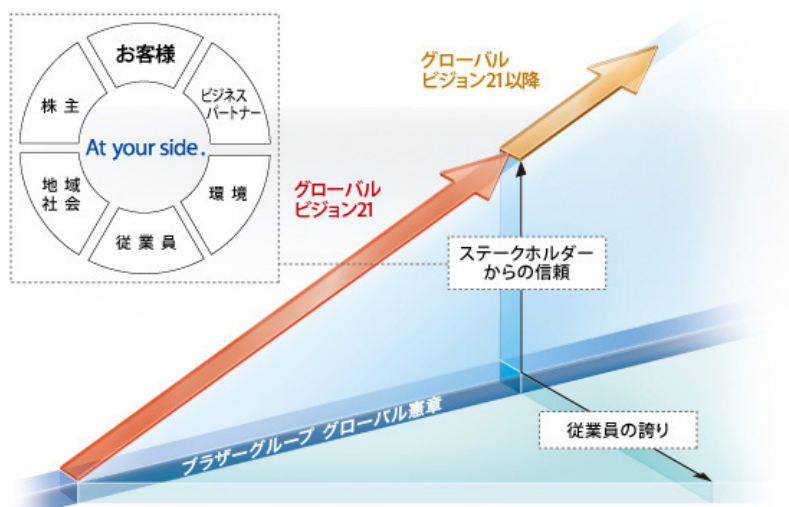
ブラザーグループのCSR経営

すべてのステークホルダーから信頼され、従業員にとって誇りの持てる企業を目指して

中長期的な視野に立ってグローバルなCSR経営を推進

ブラザーグループは、中長期的な視野に立ってグローバルなCSR経営を推進することで、さらなる事業の成長を目指すとともに、「Brother」を、お客様をはじめとするすべてのステークホルダーから信頼されるグローバルなブランドとして確立すること、そして、従業員にとってブラザーグループが心の底から「誇りの持てる企業」となることを目指しています。

こうした考えのもと、ブラザーグループはステークホルダーから信頼される活動の一つ一つ積み重ね、持続的に成長していきます。



ブラザーグループのCSR経営

ブラザーグループは1999年、グループ各社とグループ従業員の日々の意思決定と実行に関する「基本方針」と「行動規範」から成る「ブラザーグループ グローバル憲章」を制定しました。このグローバル憲章はお客様への優れた価値の提供を重視しており、お客様を第一のステークホルダーと位置付けています。

ブラザーグループは、グループ全体でこうした「お客様第一」の姿勢を貫くことで事業を成長させてきました。それによって、ブラザーグループがお客様をはじめとするさまざまなステークホルダーに与える影響も拡大し、それに伴いステークホルダーからの「要請や期待」も拡大しています。こうした中、ブラザーグループは2008年度、ステークホルダーからの要請や期待に応えていくことを、さらなる成長の推進力とし、

- 中長期的な視野に立ち、“At your side.”の精神でさまざまなステークホルダーからの要請や期待に対して責任を果たすこと
- それらを経営の新たな機会として捉え行動を起こすこと

をCSR経営の2本柱として定め、グループ各社が世界各地で自律的に取り組むことでグローバルにCSRを推進していくこととしました。こうしたCSR経営によって、ブラザーグループは、中長期ビジョン「グローバルビジョン21」を達成していきます。

信頼されるブランドを目指して

ブラザーグループは、ブランドとは、「グローバルに統一感のある、明確なもの」であり、「その時の事業や経営の状況にとらわれない、強く普遍的なもの」であるべきだと考えています。こうした考えに基づいて、

- 「ブラザーグループ グローバル憲章」に基づいた意思決定と行動
- 環境スローガン「Brother Earth」に基づく地球環境への配慮

を中心に、お客様を第一とするすべてのステークホルダーの要請や期待に応え、「Brother」を「信頼できるブランド」として確立していきます。

ブラザーグループのCSR

コーポレートガバナンス

ブラザー工業のコーポレートガバナンス体制

監査役制度と執行役員制度を採用

ブラザー工業では、ガバナンスの基本として監査役制度を採用し、取締役の職務執行を監査役が監査する体制を整えています。また、社内組織としての執行役員制を導入することによって、業務執行と監督を分離し、意思決定の迅速化とガバナンスの強化を図っています。執行役員は取締役会で選任され、それぞれが担当する各部門、社内カンパニー、グループ子会社の業務執行に対し責任を負っています。

・取締役会

取締役会は取締役6名（うち社外取締役3名）で構成され、毎月の定例取締役会のほか、必要に応じ開催される臨時取締役会において、経営上の重要事項の決定と業務執行の監督にあたっています。また、一部取締役は、戦略会議を通じて、部門の業務範囲に関する戦略立案および指導にあたっています。

▶役員一覧はこちらをご覧ください。

<http://www.brother.co.jp/corporate/bil/index.htm#board>

・監査役会

監査役会は監査役4名（うち社外監査役3名）で構成され、各監査役は、監査役会で定めた監査基準に従って、取締役会などの重要会議に出席して意見を陳述するほか、監査役スタッフ（5名）を用いて業務および財産の状況を調査するなどして、取締役の職務執行を監査しています。

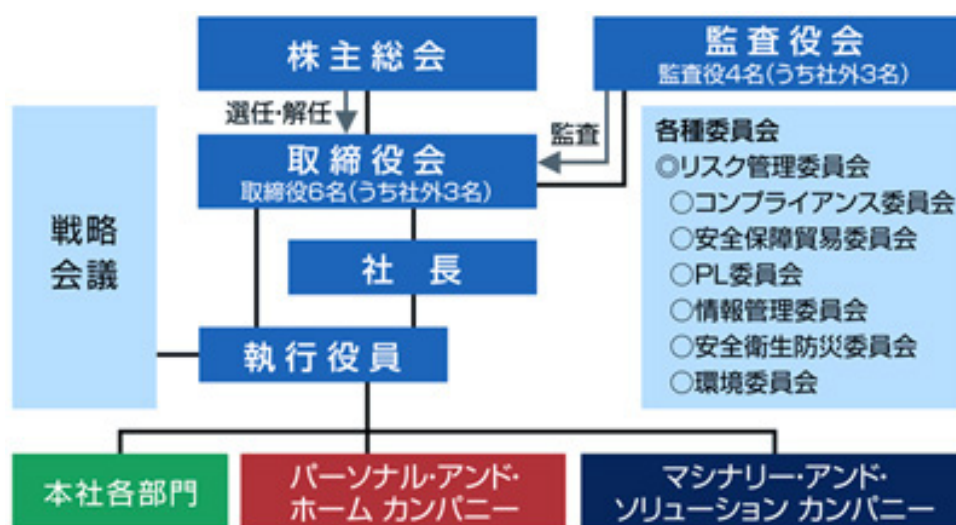
▶役員一覧はこちらをご覧ください。

<http://www.brother.co.jp/corporate/bil/index.htm#board>

・戦略会議

戦略会議は、役付執行役員を中心として構成され、経営戦略の立案およびグループ運営にかかわる重要事項を含む業務執行について審議しています。

ブラザー工業ガバナンス体制図(2011年7月現在)



ブラザーグループのCSR

コーポレートガバナンス

リスク管理体制

ブラザーグループのリスク管理体制の整備を行うために、ブラザーグループ全体の重要なリスクを識別、評価し、適切な対応指示を行う独立した経営管理組織としてリスク管理委員会(委員長:代表取締役社長)を設け、内部統制と危機管理を含むリスク管理体制の充実を図っています。

また、リスク管理委員会を頂点に、その下部組織として以下の個別リスク委員会を設置し、それぞれの個別リスクに対応して、グループの重要なリスクを総合的にマネジメントしていく体制としています。発生時の影響が最高レベルと評価されたリスクについては「危機対応段階」と見なし、優先的に対応します。

・コンプライアンス委員会

コンプライアンス(法令・企業倫理等の順守)に関する教育/啓発活動により、コンプライアンス意識の向上を図るとともに、コンプライアンス相談通報窓口の設置・運営を通じて違反行為の予防・再発防止に取り組んでいます。

・安全保障貿易委員会

輸出貿易管理に関する法規制に基づいて、適切な輸出取引や技術提供の管理にあたっています。また、法改正時の重要な案件審議のための委員会開催や半期ごとの社内監査、グループ会社への指導・教育によって、ブラザーグループ全体の管理水準の維持・向上に努めています。

・PL委員会

安全な製品づくりと迅速かつ適切な製品事故対応に努めています。また、必要に応じて委員会を開催し、製品安全対応の周知徹底を図っています。

・情報管理委員会

情報漏えいリスクなどに対応するために、会社内に存在する情報および顧客情報の適切な管理方針を定め、グループ内への展開をしています。

・安全衛生防災委員会

従業員の安全や健康の確保、災害の予防や災害時の被害の最小化を目的として、これらに関する年間計画の審議、各施策の策定・実施、啓発などの活動を行っています。

・環境委員会

ブラザーグループ全体で取り組まなければならない環境課題に対する施策を審議・決定しています。

リスクマネジメント

多様なリスクを把握し、適切に対処するために

ブラザーグループでは、事業活動に伴う多様なリスクを把握し、適切に対処するために、「ブラザーグループリスク管理規程」を定め、リスク管理委員会を設置するとともに、部門・地域・グループ会社ごとにリスク責任者を任命しています。責任者は、想定されるさまざまなリスクについて影響度・発生頻度をそれぞれ5段階で評価。これを「リスクマップ」として可視化することによって経営に大きな影響を与える可能性のある重大リスクを選別し、その対応策を検討しています。こうしたPDCAサイクルに基づいた活動によって、危機意識醸成と対応力強化を図っています。

2010年度は、リスク管理委員会を2回開催し、重要リスクを見直すとともに、取締役会に各委員会の活動状況を報告しました。今後も、引き続きリスク管理体制の整備を進めていきます。

ブラザーグループのCSR

内部統制

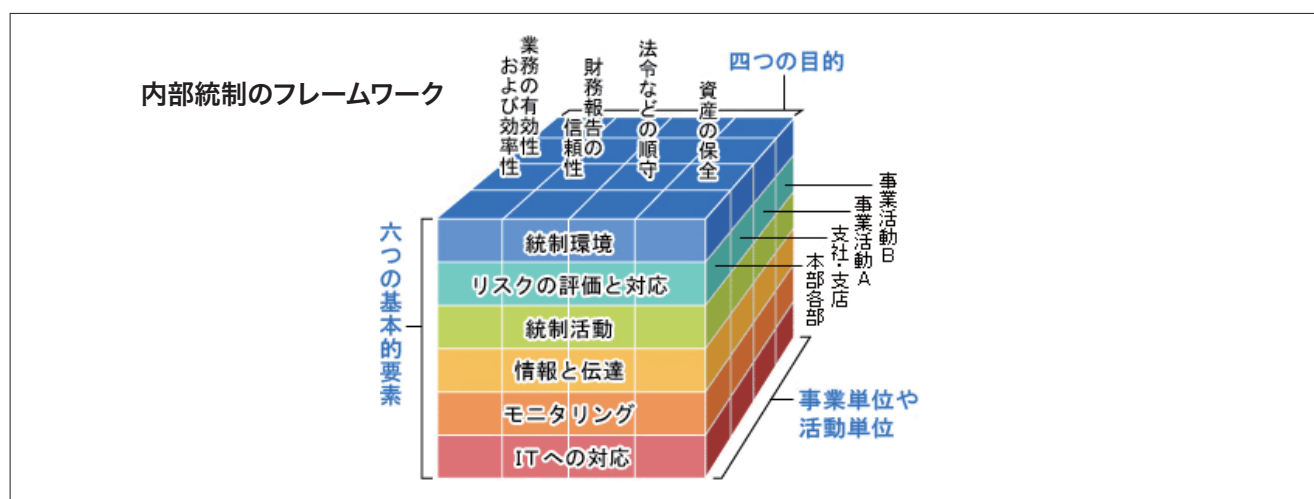
体制の整備と継続的なレベルアップ

財務報告の透明性と信頼性を確保するために

2006年5月の新会社法施行や、2009年3月期からの内部統制報告書提出義務化など、近年、社会は企業の財務報告に即ちその透明性・信頼性を求めています。ブラザーグループは、これを業務の効率化、リスク対応力の強化、グループ経営の推進、ひいては企業価値の向上を図る好機ととらえ、体制の整備を進めてきました。

こうした中ブラザーグループ各社は、内部統制が有効に機能しているかどうかをチェックリストなどで自己点検し、さらに内部監査部門が、独立的な観点からの監査を実施しました。必要な改善を行った上で、「当社グループの財務報告に係る内部統制は有効と判断します」とした内部統制報告書を金融庁に提出しました。また、内部統制の目的や重要性、グループの活動状況などを共有するためのホームページをイントラネットに開設したり、eラーニングを通じて理解を更に深めてもらうなど啓発活動を積極的に行っています。

今後も、経営を支える重要なインフラのひとつである内部統制の維持・向上を図ることで、社会からの要請である「財務報告の透明性と信頼性」の確保に努め、多くのステークホルダーから継続して高い信頼をいただけるよう努めてまいります。



地域統括会社と連携し内部監査を実施

内部統制のPDCAサイクル確立・向上を目指して

ブラザーグループでは、2010年度に、米州・欧州・亜州の地域統括会社と連携し、国内4社・海外16社のグループ会社を対象に内部監査を実施しました。これは、内部統制に関わるPDCAサイクルをより確かなものとし、業務のさらなる透明化・効率化、リスク対応力の強化を図るためのものです。

ブラザー工業と地域統括会社の監査部門が密に連携をして監査を行っており、より現地の実態に則した監査を実施できました。また、各グループ会社でも、内部統制報告制度が3年目となることから、現場部門での内部統制への理解がさらに進み、自発的な取り組みが進展してきました。

今後は、(1)自己点検による現場部門の内部統制にかかわるPDCAサイクルの自律化 (2)改善策の組織/会社横断的な展開によるグループ全体のレベルアップ (3)ブラザー工業・地域統括会社・グループ会社・各部門の連携・情報共有による監査の効率化などを目標に、内部統制機能の維持向上を図ります。

ブラザーグループのCSR

コンプライアンス

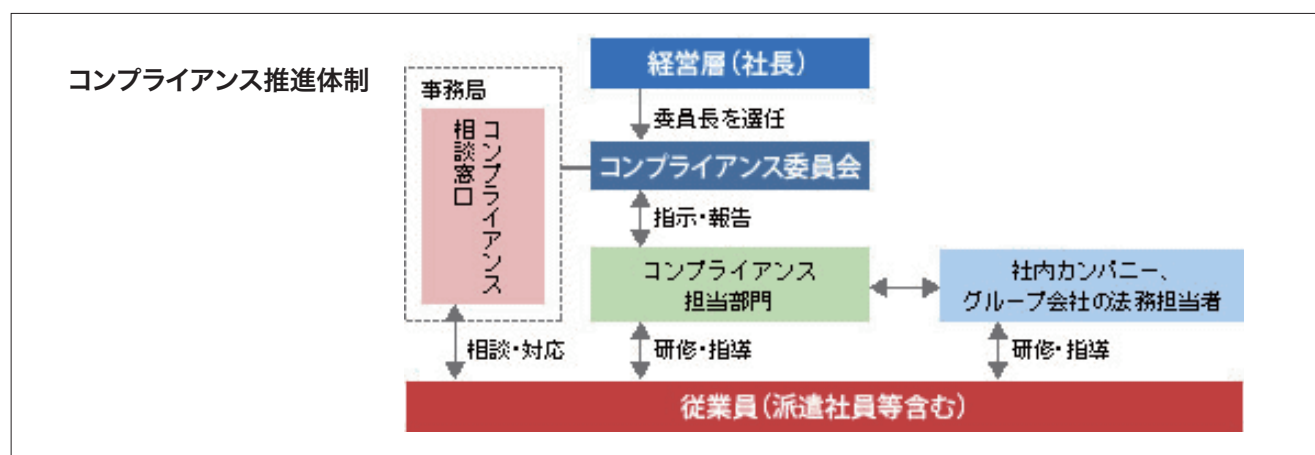
コンプライアンス体制

CSR経営の基盤として法令・倫理の順守を徹底

ブラザーグループは、コンプライアンス（法令・倫理の順守）がCSR経営の基盤を支え、さまざまなリスクを回避する上で不可欠なものであると考えています。グループ全体でコンプライアンスを徹底するために、「ブラザーグループ グローバル憲章」の行動規範のひとつである「順法精神・倫理観」に基づいて従業員の行動基準を定めています。また、コンプライアンス委員会を設置し、相談通報窓口（ヘルプライン）を設けて不祥事の未然防止や早期対応、再発防止に努めています。2010年度も引き続き、海外を含むグループ各社の窓口で受け付けた相談案件がブラザー工業のコンプライアンス委員会にも通知され、グループとしてリスク対応を一元化する取り組みが進んでいます。

教育面では、グループ各社での集合研修のほか、コンプライアンスのe-ラーニング教材を制作し、グループ各社で実施しています。

また、コンプライアンスの意識向上を図るため、ブラザーグループの全従業員を対象に、「コンプライアンス ハンドブック」を作成・配布しております。今後も、グローバルな展開を視野に入れて引き続き活動を続けていきます。



コンプライアンス ハンドブックを発行

国内グループ従業員の意識向上に向けて活動を強化

ブラザーグループでは、従業員のコンプライアンス・倫理意識の向上を目的に、「コンプライアンス ハンドブック」を発行し、国内グループ会社の全従業員に配布しています。このハンドブックには、「ブラザーグループ グローバル憲章」に基づくコンプライアンス行動基準、具体事例集に加え、クイズ形式による学習項目に多くのページを割り、従業員が自習できるような内容になっています。

また、国内グループ会社のコンプライアンス責任者による会議を開催しました。この会議では、弁護士による講演などもおこない、コンプライアンス意識の共有を図っています。さらに、2010年度のe-ラーニングは、国内グループの全従業員を受講対象として2回実施しています。

今後は、中国・ベトナムなどグループの主要生産拠点が集中するアジア地域を中心にコンプライアンス教育を強化し、企業不祥事の未然防止や倫理意識のいっそうの向上に取り組めます。



コンプライアンス ハンドブック

ブラザーグループのCSR

情報セキュリティ

情報を適正に管理・保護するために

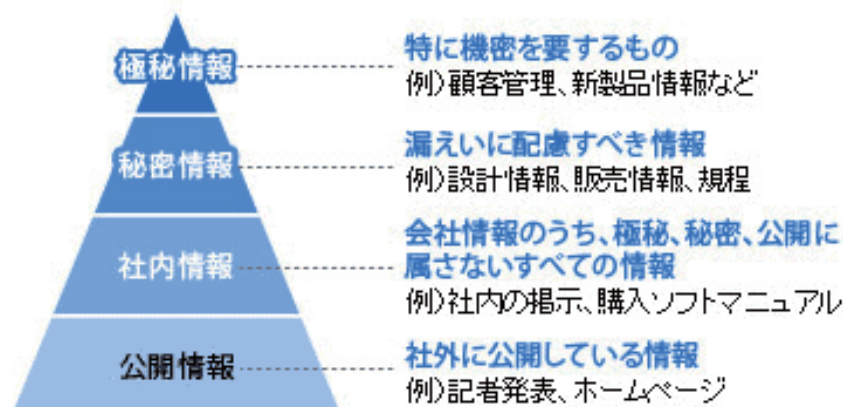
情報管理規程に基づき監査・リスク評価を定期的に実施

ブラザー工業では、情報の適正な管理・保護を、経営品質維持のための基盤と位置付け、「情報管理規程」を定めるとともに、情報管理委員会を設け、情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)に準拠した活動を実施しています。情報管理規程においては、社内で扱う情報の機密度を、内容に応じて4段階に区分し、情報の保管・アクセス・廃棄などのルールを定めており、各部門の情報管理担当者への情報共有などを徹底することで、ルールの実施を全社的に展開しています。加えて、年2回の内部監査での確認も行っています。

また、情報リスクアセスメント※として、全部門で抽出した情報リスクに対するリスク対応の計画をまとめた「適用宣言書」を情報管理委員会で承認し、リスク対応を推進しています。

※リスクアセスメント: 情報資産に対して、脅威の頻度、脆弱性、影響の大きさなどを基にリスクを評価すること

機密性に応じた四つの情報レベル



情報リスク対応の強化策を推進

アセスメントの標準化とレベル向上

ブラザー工業では2009年度から各部門の主要な業務のプロセスを対象とした情報リスクアセスメントを実施しています。2010年度はアセスメントの標準化とレベル向上のために各部門から選出された情報管理担当者にアセスメントの実施方法を教育しました。また、部門内で情報管理担当者を中心としてアセスメントを実施する体制とすることにより、業務担当者自身がリスクを洗い出し対策を考え実施する活動の定着を図りました。さらに情報管理担当者には情報管理に関する活動を部門に浸透させる役割を持たせ、問い合わせの対応ができるレベルの知識を習得させるための継続的な教育も実施しています。

2011年度はこれまでの活動を継続するとともに、リスク対策の有効性を評価する仕組みを整備することにより、PDCAサイクルのさらなる強化を図ります。また、国内子会社およびアジアの製造子会社においても同様な活動を展開していきます。

ブラザーグループのCSR

各地域のCSR課題

2010年度の課題と実績・2011年度の課題

各地域が自律的に取り組みを推進

ブラザーグループは、世界の各地域で多くの事業を展開しています。そのような中でCSR経営を推進するために、各部門や地域は、グループのすべての活動の礎である「ブラザーグループ グローバル憲章」に基づいて、それぞれの業務の特性、地域の文化・慣習を考慮したCSR経営の課題を抽出し、自立的な取り組みを行っています。

「ブラザーグループ グローバル憲章」に基づいたブラザーグループCSR経営の課題

ステークホルダー	ブラザーグループ グローバル憲章	項 目
お客様	・あらゆる場面でお客様第一を考える ・グローバルな市場から求められる多様な要請や期待にすばやく応える ・定められた事業領域内で限られた経営資源を有効活用する ・相互協力のもと、お客様中心の事業一貫経営をグローバルに展開する	お客様第一のマーケティング・商品企画・開発設計(各事業)
		お客様第一の安全・安心な製品設計
		お客様ご迷惑率を低減させる設計品質(各事業)
		お客様ご迷惑率を低減させる製造品質(各事業)
		お客様第一の物流・販売・サービス体制(各事業)
従業員	・従業員の多様性を尊重する ・人権、多様性の尊重、信頼と尊敬	多様な人財の確保
		多様な働き方の支援
	・従業員がさまざまな能力を発揮できる職場環境とチャレンジングな仕事への機会を提供する	各地域での人財育成
		グローバル人財育成
		労働安全衛生
	・従業員の努力と成果に対して、公平な評価と正当な報酬で応える	適切な評価制度
	・従業員に社会の模範となる行動を求める ・従業員に会社との価値観の共有を求める	グローバル憲章の共有
		従業員の「誇り度」向上推進
		最高度の倫理観の醸成

ブラザーグループのCSR

各地域のCSR課題

ステークホルダー	ブラザーグループ グローバル憲章	項 目
ビジネス パートナー	・常に公平・公正な取引を行う ・信頼関係に基づいて成長しあう	CSR調達の推進
		仕入先との協働
		物流パートナーとの協働
		販売先との協働
株 主	・積極的な情報公開を行い、株主との間に長期的な信頼関係を築く	IRコミュニケーション
		社会的責任投資株価指数の構成銘柄
地域社会	・地域に対する社会的・経済的・文化的責任を可能な限り分担する	「事業に関連した活動」 「地球環境への配慮に関連した活動」 『『地域』『人づくり(従業員を含む)』を 意識した活動』にテーマを絞った 各地域での自律的な社会貢献活動
		グローバルに統一感を持った 社会貢献活動
環 境	・持続的な発展が可能な社会の構築に向け、 企業活動のあらゆる場面で地球環境への配慮に 前向きで継続的な取り組みを行う	CO2排出量削減の推進 (地球温暖化の防止)
		消耗品・製品の回収リサイクル (循環型社会形成)
		化学物質の管理
		環境社会貢献活動の実施 (できる限り生物多様性を意識した活動)
		環境コミュニケーションの実施 (「Brother Earth」、イベント、教育、ダイアログなど)
ガバナンス	・活動する国や地域における関連法規、規制を遵守し、 文化を尊重する ・最高度の倫理観を持って行動する	グローバルガバナンス体制の構築
		内部統制の推進
		コンプライアンスの推進
		情報セキュリティの推進

ブラザーグループのCSR

各地域のCSR課題

2010年度のCSR課題と実績・2011年度の課題

<日本>

2010年度の課題	2010年度の実績	2011年度の課題
・お客様満足度の向上とお客様とのコミュニケーション強化 ・トップブランドにふさわしい品質水準、ブラザー独自の顧客価値の提供 ・WEBによるお客様サポートの強化 ・グローバル人財の育成などグループの真のグローバル化の推進 ・営業系人財の育成強化と環境整備 ・ビジネスパートナーとの信頼関係の強化 ・従業員参加型の地域社会貢献活動の推進 ・環境に配慮した製品設計の推進 ・消耗品の回収・リサイクルの推進 ・環境配慮型企业としての認知度向上	・お客様ご迷惑率「ゼロ」に向けた厳しい品質基準の設定 ・産業機器の「お客様ご迷惑率」の低減に向けた訪問活動 ・「ブラザーサポートナビ24」のリニューアル ・カラオケ事業の拡大に伴うコールセンター機能の強化 ・グローバル採用第二期生の入社 ・CSR調達の推進に向けたベトナムでの勉強会の開催 ・ファクスや複合機を整備し、福祉団体などへの寄贈の実施 ・マダガスカルでの生物多様性保全の支援の開始 ・愛知県指定自然環境保全地域での環境保全活動の実施	・マーケティング活動を通じたCSR経営の実践 ・グローバルマーケティング機能の強化 ・お客様満足度の向上とお客様との接点の拡大 ・さらなる品質向上によるお客様満足度の向上 ・ブランド認知の向上と、製品に対するサービスの安定供給・質の向上 ・グローバル憲章の共有強化と従業員満足度向上 ・グローバル開発・製造を推進するための人材育成と最適配置 ・グローバルに活躍するプロ人財・チャレンジする次世代人財の創出 ・自己啓発、能力向上など新たな教育プログラムの開発と業務フロー改善 ・ビジネスパートナーとの信頼関係の強化 ・従業員参加型の地域社会貢献活動の推進 ・「Brother Earth」をスローガンとした環境活動の実施 ・環境配慮型設計の推進 ・災害時の物流および部品調達対応の強化 ・各種団体と連携した、あるいは独自の東日本大震災復興支援活動

ブラザーグループのCSR

各地域のCSR課題

2010年度のCSR課題と実績・2011年度の課題

<南北アメリカ>

2010年度の課題	2010年度の実績	2011年度の課題
・お客様サービス体制の強化 ・自律型人財育成プログラムの強化 ・従業員参加による社会貢献活動の継続的な実施 ・従業員の環境意識の向上と環境保護活動の推進(ブラザーエコポイント活動の実施)	・新イントラネットを導入した、社員とのつながりを深める活動の実施 ・ユナイテッド・ウェイ募金キャンペーンの実施 ・森林保護団体に協力した、北米および中南米での森林保護活動の実施	・米州全体でのお客様サービス体制の強化 ・自律型人財育成プログラムの強化 ・従業員参加による社会貢献活動の継続的な実施 ・「Brother Earth」をスローガンとした環境活動の実施

<欧州>

2010年度の課題	2010年度の実績	2011年度の課題
・会社および個人による、地域社会での環境貢献活動および慈善活動の継続的な推進 ・環境NPO(クールアース)へのスポンサーシップと連携した、消耗品の回収・リサイクルの導入	・ペルー熱帯雨林の保全 ・従業員ボランティアによる児童保健センターの改装 ・病気などの試練に直面する子供たちの支援 ・フードバンク基金への車両の寄贈	・マーケティング活動を通じた「Brother Earth」のPR ・会社および個人による、地域社会での環境活動および社会貢献活動の継続的な促進 ・「Brother Earth」をスローガンとし、環境NPO(クールアース)へのスポンサーシップと連携した、消耗品の回収・リサイクルの推進

ブラザーグループのCSR

各地域のCSR課題

2010年度のCSR課題と実績・2011年度の課題

<アジア・オセアニア・中近東>

2010年度の課題	2010年度の実績	2011年度の課題
・亜州全体での統一したWEBサイトによるブランド力、利便性の向上 ・グローバル憲章の浸透活動を目的にした各種活動の実施並びに人財の育成 ・生物多様性社会への貢献活動の強化 ・消耗品の回収・リサイクルの促進	・ブラザーエコポイント活動に応じた環境保全活動の実施 ・川の洪水を防ぐための森林再生 ・マングローブ林の再生支援	・ブランド認知度の向上 ・グローバル憲章の更なる浸透を通じた人材育成 ・グループで一体感を持った、従業員参加の社会貢献活動への参加 ・「Brother Earth」をスローガンとした環境活動の実施

<中国>

2010年度の課題	2010年度の実績	2011年度の課題
・お客様販売・サービス体制の強化 ・従業員による自主活動の奨励（ブラザーエコポイント活動など） ・ブランドガバナンス活動の展開	・ブランドイメージ統一活動の強化 ・農村部の若い女性の縫製技能習得のサポート ・小学生への環境教育の実施	・ブランドガバナンスの強化 ・自律型人材育成プログラムの実施 ・家庭用ミシンを活用した従業員参加の社会貢献活動の実施 ・「Brother Earth」をスローガンとした環境活動の実施

ブラザーグループのCSR

CSR・ブランド戦略

「グローバルCSR・ブランド戦略会議」を開催

グローバルなCSR活動のさらなる進化のために

2011年1月24日、ブラザー工業本社において「第三回グローバルCSR・ブランド戦略会議」を開催しました。

ブラザーは、事業活動を支えるグローバル戦略の柱の一つとして「グローバルCSR」を推進し、「Brother」をグローバルな「信頼できるブランド」として確立することを目指しています。

この会議は、グループの経営層がブラザーのCSR・ブランド活動の進捗を確認し、今後の計画を策定する場として設けられたものです。会議には、議長であるブラザー工業社長の小池をはじめ、ブラザー工業の執行役員、米州、欧州、亜州の地域統括販売会社、兄弟(中国)商業有限公司(以下、BCN)、ブラザー販売、エクシングの社長が出席をしました。



グローバルCSR・ブランド戦略会議

今回の会議では、各地域統括販売会社の社長などから各組織での2010年度のブラザーグループ グローバル憲章(以下グローバル憲章)の共有活動、「Brother Earth」をスローガンとした環境貢献活動などが報告されました。

また、その後参加者全員で、CSR・ブランドの中長期戦略について話し合いがなされました。具体的にはCS B2015におけるCSR・ブランド戦略のブラザーグループ方針、

- ・ グローバル憲章のさらなる浸透
- ・ 「Brother Earth」をスローガンとした地球環境に配慮した活動の強化

に加え、ますます拡大するステークホルダーからの要請や期待、CSRやブランドに関するリスクや課題、また、それらに対応するための従業員の意識の向上など、様々な項目について議論が行われました。

その結果上記のグループ方針に加え、以下の活動についても強化していくことが決定されました。

- ・ グローバルに一体感を持った社会貢献活動の推進
- ・ ブラザーグループの拠点が所在する新興国の社会課題への対応
- ・ WEBサイトの品質向上を含めたブランドマネジメントの強化
- ・ CSR、環境活動の外部への継続的な報告

ブラザーグループのCSR

CSR・ブランド戦略

中国でブランドイメージの統一活動を強化

ブランドイメージを統合管理するチームが社内外で幅広く活動

BCNは、2010年のCSR活動の重点施策の一つとして、中国市場におけるブランドイメージの統合的な管理を図る「ブランドガバナンス」の基盤づくりに着手しました。

ブランド価値の向上は、お客様満足に直結する重要な要素であり、ブランドイメージが常に世界中で正しく伝達されることによって、ブラザー製品やサービスの価値向上にも寄与します。

販売ネットワークが拡大し、情報媒体も多様化する中で、ブランドのガバナンスを推進することは大変重要であり、これを徹底するにはまずデザインマニュアル※の浸透および正しい運用を監督する組織が必要です。



ブランドイメージの統合管理を行うBCN担当者（CSR推進部）

そこでBCNでは、2010年に事業別のブランドガバナンス担当者を選任し、社内外で活動を展開しました。社内では、各部門で作成した印刷物・宣伝物すべてをチェックするとともに、全従業員にマニュアルに基づく会社便箋・看板・社員証・包装などのツールを示し、ブランドイメージ統一の重要性を理解するための教育活動を行いました。

社外では、上海地区の代理店を訪問し、看板や印刷物の使用状況を把握するとともに、ブランドイメージ統一への理解をお願いしました。

1年を通じた活動により、従業員や代理店におけるブランドイメージ統一への理解が深まり、BCN担当者も今後の更なる課題の把握ができました。2011年からは、社内での宣伝・印刷物の監督審査および従業員の啓発活動を継続するとともに、代理店訪問のエリア拡大やブランド使用の管理・助言活動を強化し、販売ネットワークの隅々までブラザーブランドの価値向上活動を広めていきます。

※ブラザーコミュニケーションデザインマニュアル：ロゴとコーポレート・カラーをルールどおりに正しく使用することで、一貫したブラザーブランドのイメージをお客様に伝えることを目的として作成されたマニュアル

ブラザーグループのCSR

第三者意見

ブラザーグループの2010年度のCSRへの取り組みに対する第三者意見

当意見は、本ブラザーグループのCSRへの取り組みに関するWEBサイトの記載内容、および同社のCSR、環境、調達、人事・健康・安全の各担当者へのヒアリングおよび中国・深圳の兄弟高科技(深圳)有限公司および兄弟工業(深圳)有限公司での現地視察に基づいて執筆しています。

同グループのCSRへの取り組みは、環境負荷の削減や取引先への取り組みの呼びかけ、社内外への多言語での発信など、広範な項目について、国内外でマネジメント・サイクルを適切に進めていると言えます。

高く評価すべき点

- ・**温室効果ガスの排出量削減**について、製品による環境負荷削減として、ファックス・プリンタなどの複合機を設計変更し、製品使用時、特に待機時の電力使用量を大幅に削減して、生産時の二酸化炭素(CO₂)排出量を使用時の省エネによって相殺できていること。またファックス・プリンタの主要生産拠点の1つである兄弟高科技(深圳)有限公司で新設された建屋の屋上に大規模な緑化を行うなど、現地従業員の提案や実践による取り組みが進んでいること。
- ・**顧客満足の向上**について、「お客様ご迷惑率」という可視化と把握によって、不具合・故障の低減や修理期間の短縮など、さまざまな成果に結び付けていること。

取り組みの進捗を評価しつつ、さらなる努力を求めたい点

- ・**使いやすさや環境に配慮した製品づくり**について、同年度に発売された複合機的全機種が、欧州の主要な環境ラベルの認定を取得していることや、一部の機種について自動両面印刷を標準設定として出荷していることを評価するとともに、今後は、ユニバーサル・デザイン・フォントの使用推奨や、トナーセーブや2 in 1印刷なども標準設定として出荷するなど、使用時の環境負荷削減を促す取り組みがさらに進むことに期待します。
- ・**生物多様性や水資源への配慮・対応**について、世界各地で環境保全活動に協力し、2015年までの新・中期計画にも明記したことを高く評価するとともに、今後は、印刷に不可欠な紙、ミシンによる縫製に不可欠な布の素材を供給する生態系のリスクへの理解・共有をさらに進め、保全への取り組みを拡充することを期待します。
- ・**人的多様性の向上と活用**について、日本国内大学への外国人留学生と海外大学の卒業者が新規採用の28%を占め、グループトレーニング制度による海外拠点への派遣を継続していること、また、中国のグループ会社について、グループ横断で部長級人材の育成を図るとともに、管理職への登用や職務権限の移管を進めるなど、中期的な人材戦略に基づく取り組みが進んでいることを高く評価するとともに、今後は処遇体系の統合など、グローバルな人材活用・育成の基盤がさらに拡充されることに期待します。
- ・**働き続けやすい職場づくり**について、国内のグループ会社に勤める子どもを持つ女性従業員のための「Brother Mothers」活動の充実や、労使協約により、産休からの復職時に1か月間の「ならし期間」を設けるなどの取り組みを高く評価するとともに、今後は育児・介護・看護のための休暇・短時間勤務の利用率(ブラザー工業で3.19%)をさらに高められるよう、現場の課題の把握と解消が進むことに期待します。また、中国の生産拠点においても、継続勤務志向の高まりなどを受けて、妊娠中の従業員に対する配慮や対応が進んでいることを評価するとともに、今後は寮での生活環境の改善がさらに進むことを期待します。



IHOE[人と組織と地球のための国際研究所]
代表者 川北 秀人

川北秀人

ブラザーグループのCSR

第三者意見

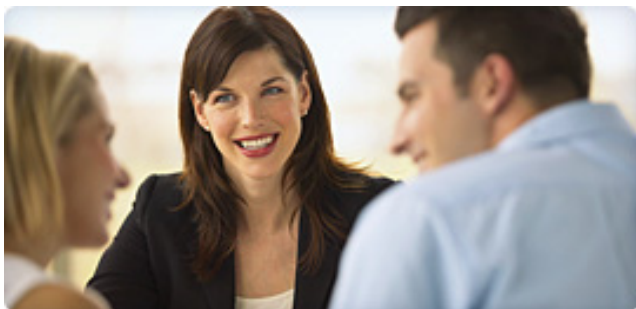
- ・**サプライヤーへの働きかけ**として、環境・人権・労働・安全衛生・公正取引・企業倫理・情報セキュリティ・社会貢献などを加えたCSR調達に関する勉強会を、中国、ベトナム、マレーシアで開催し、取引先のCSRへの取り組み状況を可視化する調査や表彰制度を設けていることを高く評価するとともに、今後はサプライヤー間の交流により課題解決が進む体制が整備されることを期待します。
- ・**社会貢献活動**について、従業員の日常的な環境負荷削減への取り組みによる「ブラザーエコポイント活動」に、世界の全従業員数の約3割にあたる8900人以上が参加していることや、ミシンを活用したエコバッグづくりなど自社の資源を生かした活動を高く評価するとともに、今後も世界共通の基本方針のもとで、社会への投資として戦略的に推進されることを引き続き期待します。

グローバル企業として、取り組みの進展が期待される点

- ・社長や役員などトップマネジメント層による従業員向けの発信が年間90回以上に及び、8か国語に翻訳されていること、また、CSRへの取り組みについてもWEB上で3か国語で発信されていることなど、多言語での発信を高く評価するとともに、今後は、NGOなど社外のステークホルダーとの対話の機会を、特に欧州において積極的に設け、次に取り組むべき社会的課題について学び、協働して取り組むきっかけに結び付けることを強く期待します。

IIHOE:「地球上のすべての生命にとって、民主的で調和的な発展のために」を目的に1994年に設立されたNPO。主な活動は市民団体・社会事業家のマネジメント支援だが、大手企業のCSR支援も多く手がける。
<http://blog.canpan.info/iihoe/> (「IIHOE」の関連サイトへリンクします。)

お客様とともに



ブラザーグループは、あらゆる場面でお客様を第一に考え、モノ創りを通して優れた価値を創造し、迅速に提供します。そしてお客様との間に長期的な信頼関係とロイヤルティを築きます。

お客様第一の製品開発

- ・お客様の声を的確にタイムリーに反映する仕組み
- ・A3カラーインクジェット複合機ジヤスティオ「MFC-J6710CDW」の開発事例

お客様ご迷惑率の低減

- ・お客様視点に基づく「お客様ご迷惑率」という考え方
- ・産業機器の「お客様ご迷惑率の低減」に向けた訪問活動

安全・安心な製品設計

- ・お客様視点を製品の隅々にまで反映する「顧客品質基準」の考え方
- ・品質基準をさらにレベルアップしてお客様満足向上へ

物流・販売・サービス体制

- ・WEBサポートページをさらに使いやすく便利に
- ・カラオケ事業の拡大に伴いコールセンター機能を強化

お客様とともに

お客様第一の製品開発

お客様の声を的確にタイムリーに反映する仕組み

多面的な調査によって「潜在的なご要望」まで描き出し、製品に具現化します

ブラザーグループは、お客様の声をすべての事業活動の原点と考え、さまざまな場面でご意見やご要望をお聞きし、データベース化しています。

特に新製品の企画段階では、企画開発スタッフがお客様への訪問、グループインタビュー、ウェブサイトでのアンケートなどを通じて、製品の使用環境やご感想・ご要望などを幅広く深く調査し、お客様ご自身も意識されていない「潜在的なニーズ」を顕在化させて次の製品開発に反映します。

こうして、お客様のニーズにジャストフィットする機能・サイズ・デザイン・価格として具現化し、お客様に新たな価値とご満足をご提供できるよう努めています。



お客様の声を製品開発に反映する仕組み

A3カラーインクジェット複合機ジャスティオ「MFC-J6710CDW」の開発事例

グローバルなお客様の声から浮上した次世代機のコンセプト

2008年に発売した、A3用紙対応の世界最小※のカラーインクジェット複合機、ジャスティオ「MFC-6490CN」は、新開発の製品であり、お客様のご使用状況に関する情報が十分にありませんでした。そこでご購入いただいたお客様に対する訪問調査やアンケート調査をグローバルに実施した結果、日本では従来のA3複写機に比べてサイズが格段に小さく、価格がリーズナブルという点が高く評価され、一方アメリカではA3プリント・スキャンのユニークは評価されつつも、基本性能であるスピード・画質・信頼性へのさらなる向上が望まれているなど、地域によって求めるニーズが違ってくるのが分かりました。

※A3カラー複合機におけるサイズ比較。2008年3月時点。弊社調べ。



新製品ジャスティオ「MFC-6710」



A3カラー複合機を購入されたお客様の声を収集・分析

お客様とともに

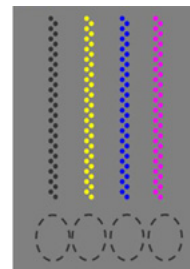
お客様第一の製品開発

ビジネスユースを満足させるコンパクトなA3カラーインクジェット複合機を

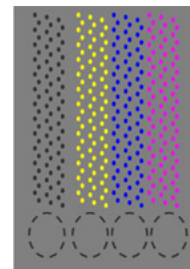
こうして、お客様の声にお応えする次期モデルの方向性が見えてきました。SOHOなど、小規模事業所でも使いやすいコンパクトなサイズや価格はそのままに、ビジネスマシンとしての印刷スピードやインク容量などを格段に向上させたA3カラー複合機を。その実現に向けて新たな挑戦が始まりました。

しかし、克服すべき技術の壁は高く険しいものでした。例えば、印刷速度を速くするには、インクを噴射するノズル数を増やして一度に広い面積を印刷することが必要ですが、そうするとヘッドが大きくなり所定のボディに収まりません。また、速度を上げても画像の美しさや文字の鮮明さを損なわないようインクの液滴をピコリットル、という1兆分の1リットルという単位で制御しなければなりません。プロジェクトチームは、「絶対にあきらめない」を合言葉に、何度もシミュレーションや実験・試作を繰り返しながら多くの課題を一つずつ克服していきました。

【従来ヘッド】



【新ヘッド】



印刷速度の向上と画質の両立を図るため解像度・ノズル数ともに2倍にした新ヘッドの機構

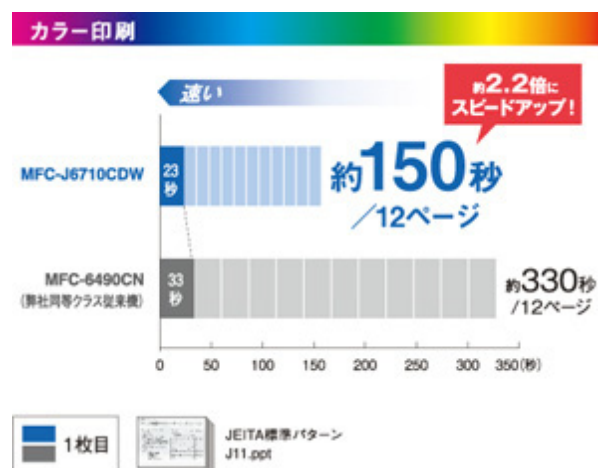
印刷速度は前機種約2倍以上、自動両面プリント&スキャンの高性能を実現

そして、2010年～2011年にかけて、高速プリントエンジンを搭載した新しいA3カラーインクジェット複合機ジャスティオをビジネス市場に向けて送り出しました。

ボディは従来機とほぼ同じサイズで、印刷速度は従来の2倍以上、インク容量は従来に比べてブラックは約2.5倍、カラーは約1.6倍と、インクの容量を大幅にアップし（いずれも当社比）ランニングコストを低減、堅牢性を高めた用紙トレイは上下合わせて500枚まで給紙でき、自動両面スキャン（MFC-J6910CDW）&自動両面プリントなど、大量印刷時の効率性や経済性などビジネスユースに力強くお応えできる機能を満載しています。さらに、使用時のCO₂排出量（5年間の消費電力量）も2008年モデルに比べて12%削減するなど、環境性能も向上させました。

お客様から「こんなA3カラー複合機が欲しかった」というご感想がいただけるようなモノ創りを目指して、ブラザーグループはこれからもお客様の声に耳を傾け続けます。

*インク容量や消費電力の比較は国内モデルにおける数値です。



高速プリントエンジンで部数の多い出力や複数人での共有でも業務の効率化に貢献



ブラック/カラーともインク容量を大幅にアップし、大容量用紙トレイとともに高生産性を発揮

お客様とともに

安全・安心な製品設計

お客様視点を製品の隅々にまで反映する「顧客品質基準」の考え方

安全に使い続けていただける製品設計に向けて

世界中の国や地域でご利用いただいているブラザー製品は、その設置環境や使用方法が非常に多様です。品質保証担当部門では、市場で起きた様々な問題に関わる情報をデータベース化し、得られた情報から製品の品質基準と評価方法を作成しています。さらに、想定される問題を未然に防止するため、その対策を設計段階から織り込み、お客様に安心してお使いいただける製品づくりをしています。これが「顧客品質基準」であり、ブラザーグループの精神である“At your side.”の考え方を製品開発に反映したものです。

「顧客品質基準」は固定されたものではなく、修理依頼の情報やコールセンターに寄せられる情報などを精査して常に見直しを図っています。

品質基準をさらにレベルアップしてお客様満足向上へ

「返品ゼロ・お問い合わせゼロ」に向けてより厳しい品質基準を設定

ブラザーグループでは、1カ月の製品出荷台数のうち無償修理などを含む返品割合である「お客様ご迷惑率」をお客様満足度向上の指標の一つとし、返品ゼロを究極の目標にして製品の品質向上に取り組んでいます。

また、操作方法がわからなかったりトラブルが発生したりしたとき、お客様がコールセンターにお問い合わせいただかなくても問題が解決できるような製品づくりやサポート体制の構築にも、力を注いでいます。

2010年度はその取り組みの一環として、お客様の視点を製品の隅々にまで反映するため、「顧客品質基準」の運用をさらにレベルアップしました。

例えば、アメリカ市場で2008年～2009年に主に販売していたモノクロレーザープリンターモデルのお客様からの返品について、その内容や原因を詳細に調査・分析し、返品が少なくなるような対策と新たな品質対応を新機種の開発に反映させました。この結果、2010年に発売した新型モデルでは返品を大幅に削減することができました。

また、コールセンターにはレーザープリンターの初期設定やLAN接続に関するお問い合わせが多く寄せられていることから、対策分野ごとに品質保証部門のQM推進部・お客様サポート部門であるCS推進部・ソフトウェア関連開発部からなるワーキンググループを結成し、製品仕様や取扱説明書の変更などの対策を実施しました。この結果、新型モデルでは、上記に関連したお問い合わせが大幅に減少しました。

ブラザーグループでは、これらの取り組みをさらに進化させ、今後もお客様ご迷惑率の低減活動を絶え間なくレベルアップさせることで、「返品ゼロ・お問い合わせゼロ」を目指してまいります。



ワーキンググループによる改善テーマの検討

お客様とともに

お客様ご迷惑率の低減

お客様視点に基づく「お客様ご迷惑率」という考え方

製品出荷後の不具合発生を限りなくゼロに近づけること

ブラザーグループでは、お客様から返品または修理のために戻ってくる製品の割合を「お客様ご迷惑率」と定義しています。これは、どんな小さな不具合でも、その修理のためにお客様にご負担いただかねばならない時間や手間は、お客様にとって「ご迷惑以外の何ものでもない」という考えによるものです。そのため、不具合発生を限りなくゼロに近づけることこそ、お客様満足向上への最優先課題と捉え、開発設計・製造・物流・販売・サービスなど各部門が一体となった品質向上活動を続けています。

産業機器の「お客様ご迷惑率の低減」に向けた訪問活動

トラブル未然防止のためのユーザーミーティングやディーラーミーティングを実施

産業機器事業の主力製品であるCNCタッピングセンターは、コンピューター制御で金属部品を精密加工する工作機械です。自動車部品などの量産加工に携わる多くのお客様は、この機械を24時間稼働させています。したがって夜間にトラブルが起これば、日中の修理まで長時間にわたって生産ラインが停止し、生産の遅延や不良品の発生など、お客様に大変なご迷惑をおかけすることになります。

しかしながら、これらのトラブルの多くは、お客様が日常行う簡単なメンテナンスで未然に防ぐことができます。さらにスイッチの接触不良などの比較的軽微な問題であれば、お客様ご自身が復旧作業を行うことで、機械停止時間を最小限にとどめることもできます。

そこで、事業部門のマシナリー・アンド・ソリューション(M&S)カンパニーでは、「お客様ご迷惑率の低減」に向け、お客様やディーラーを訪問して、トラブルの未然防止や機械停止時間短縮のための適切なメンテナンスの指導や助言を行っています。さらに、お客様からさまざまなご相談や製品改善のご要望を承るという活動にも力を注いでいます。

2010年度は、国内ではお客様を直接訪問する「ユーザーミーティング」を、海外では主要販売国の中国においてタッピングセンターを販売するディーラーの保全担当エンジニアを対象とする「ディーラーミーティング」を実施し、主なトラブル要因、日常点検の重要なポイント、復旧のための要点などを説明しました。

これらのミーティングの開催は、トラブルの未然防止ができ、停止時間短縮を実現させた何件もの事例につながったとともに、直接お客様と会う機会が増えることで、お互いの信頼関係がさらに深まるという効果も生みました。

M&Sカンパニーでは、今後もこうした活動を継続・発展させながら「お客様ご迷惑率の低減」を推進していく方針です。



CNCタッピングセンター新機種TC-S2DN



お客様の工場で製品メンテナンスのポイントを説明

お客様とともに

物流・販売・サービス体制

WEBサポートページをさらに使いやすく便利に

「ブラザーサポートナビ24」に故障診断・修理受付機能を加えてリニューアル

日本の販売拠点であるブラザー販売株式会社では、WEBサイトのお客様サポート情報ページをリニューアルし、そのページ内にある「ブラザーサポートナビ24」に「故障診断」と「修理受付機能」を加えることで、製品の故障やトラブルに対するサポートをこれまで以上に充実させました。リニューアル後の「ブラザーサポートナビ24」はサポート情報ページのトップから簡単にアクセスできるようになり、また案内画面も一新されより使いやすくなっています。ページリニューアルに伴う新たなサービスは、2010年11月30日にスタートしています。

故障診断では、製品別に主なトラブルをイラストなどで分かりやすく説明し、初心者の方でも容易に解決いただけるよう手順や操作などをご案内しています。また、故障診断で「修理が必要」と判断された場合、修理費用とオンライン修理申込特典をメールでご案内し、申込画面に必要な事項を入力いただければ、WEB上でスピーディーに修理受付が完了します。

製品に故障やトラブルが生じた時、お客様が「ブラザーサポートナビ24」を活用してご自身で問題を解決いただければ、コールセンターの受付時間や待ち時間を気にすることなく、24時間安心してブラザー製品の機能をお楽しみいただけます。

ブラザーグループでは今後も、こうしたお客様に対するサポート環境の更なる向上を目指し、操作性やメンテナンス性に優れた製品開発を推進するとともに、WEBサイトを活用したサポート体制の拡充に努め、高いお客様満足度を追求してまいります。



故障診断・修理受付機能を加え、画面も分かりやすくリニューアル



故障診断画面の一例（複合機）

お客様とともに

物流・販売・サービス体制

カラオケ事業の拡大に伴いコールセンター機能を強化

お客様のお問い合わせに「24時間365日何時でも」対応

通信カラオケやコンテンツサービスなどを展開するグループ企業「株式会社エクシング」は、2010年7月、UGAブランドで通信カラオケ事業を展開する（株）BMBと合併し、通信カラオケ事業を大幅に拡大しました。これに伴い、両社のコールセンターを一本化し、10月から本格運用を開始しています。

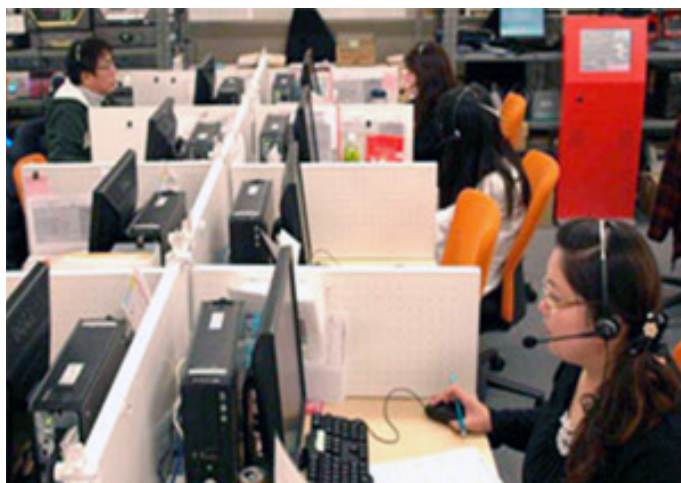
コールセンター内には、製品機能や機器の設置に関する技術的なサポートを行う「ヘルプデスク」と、製品をご契約頂いているお客様向けにトラブル対応や操作説明・ご契約内容の確認・営業担当者への取次を行う「カスタマーセンター」を設置しています。

中でも、カラオケは夜間対応のニーズが高いためカスタマーセンターでは、「24時間365日いつでも」対応する体制を更に拡充し、お客様のお問い合わせ内容を営業担当者の携帯電話へメール転送するしくみの構築とともに、緊急の場合には担当者に出動を要請するなど早期対応を図っています。

コールセンターでは、いただいたご指摘やご意見の原因をつぶさに分析し、体制の改善や新たなサービスの開発をすることで、お客様により快適にご利用いただけることを目指しています。エクシングでは、カラオケやコンテンツを通じたエンターテインメントの世界を一層お楽しみいただけるようお客様満足の向上に努めてまいります。

JOYSOUND × UGA

2010年7月、2つのカラオケブランドが一つになり、カラオケ店・取扱機器・サービスなどが大幅に拡大



お客様満足向上に向け体制を強化したコールセンター

従業員とともに



ブラザーグループは、従業員の多様性を重視し、さまざまな能力を発揮できる職場環境とチャレンジングな仕事への機会を提供します。そして努力と成果に対して、公正な評価と正当な報酬で応えます。

多様な人財の確保

- ・雇用・処遇に関する基本方針
- ・多様な人財を確保するために

各地域での人財育成

- ・グローバルな人財育成に向けて
- ・グローバル開発を実現するため、開発分室でプロ人財を育成【台湾】

労働安全衛生

- ・グローバルな安全・防災の仕組みづくり
- ・心身の健康維持・増進

従業員の「誇り度」向上推進

- ・「ブラザーらしさ」を継承していくために
- ・働きがいのある会社ランキング、19位にランクイン

多様な働き方の支援

- ・多様な働き方を支援するために
- ・ワーキングマザーの自主的な交流・発信活動
- ・ボランティア活動の推進

グローバル人財育成

- ・グローバルな人財育成に向けて
- ・次代を担う現地幹部人財の育成
- ・刺しゅう機の販売促進活動を通じてグローバル人財を育成
- ・グローバル採用“第二期生”が入社

グローバル憲章の共有

- ・すべての活動の礎に――「ブラザーグループ グローバル憲章」の浸透
- ・BIC(カナダ)新イントラネットを導入

従業員とともに

多様な人財の確保

雇用・処遇に関する基本方針

多様な人財が能力を発揮できる制度・環境を整備

ブラザーグループは、世界44の国と地域に設置した16の生産拠点と52の販売拠点で事業を展開しています(2011年7月現在)。人種・言語・文化・習慣など、事業を取り巻く環境がさまざまに異なる中で、全従業員がグローバルチームブラザーの一員として、日々活躍しています。

その基盤となるのが「ブラザーグループ グローバル憲章」(以下グローバル憲章)の「基本方針」に掲げた「従業員の多様性を重視し、さまざまな能力を発揮できる職場環境とチャレンジングな仕事への機会を提供する。そして、努力と成果に対しては、公正な評価と正当な報酬で応える」という考え方です。また、「グローバル憲章」の行動規範では「常に一人ひとりの人格、多様性を尊重し、信義と尊敬を持って行動する」ことを定めています。

ブラザーグループ各社では、これらの考え方に基づいて、採用・評価・昇進などにおいて、民族・国籍・宗教・思想・性差・学歴・年齢・障がいの有無など、あらゆる差別を排除することを目指し、また、児童労働や強制労働を禁止しています。今後も経営層と従業員が一体となって、関連法規、規則の順守はもちろん、各自の文化や慣習を尊重し、「グローバル憲章」に基づいた人事制度の進化、職場環境の継続的な改善に取り組んでいきます。

公正な評価と処遇を目指した目標管理制度

ブラザーグループでは、意欲・能力・成果を公平・公正に評価して処遇に反映するための体制を構築しています。例えばブラザー工業では、一般従業員については、明確な評価基準に基づく目標管理制度のもと、納得性の高い評価を実施しています。評価の結果は被評価者に公開し、その後の面談においてその評価理由を伝えています。こうすることで、従業員が自らの仕事を振り返り、新たな目標に向かって成長していくためのモチベーションも高まるため、人財育成にもつながっています。なお、上級職に関しては、年俸制を採用しています。

従業員とともに

多様な人財の確保

多様な人財を確保するために

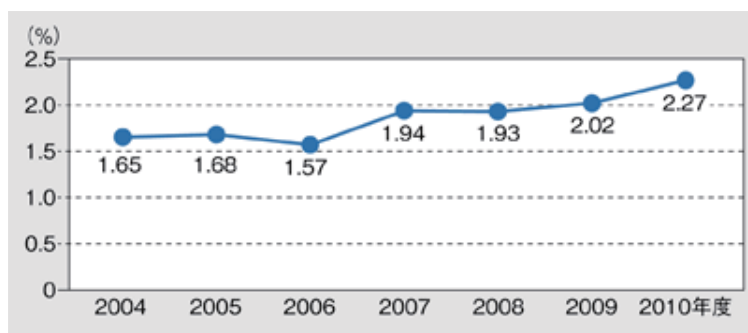
女性管理職の登用を推進

女性管理職については、各国・各地域で、女性の社会進出の歴史、生活文化、主な職種などが異なるため、全管理職者数に対する比率に差はあるものの、2010年度（2011年3月31日時点）は、中国（シンセン）のグループ会社やブラザー工業などで管理職として活躍する女性が増加しました。

ブラザーグループの女性管理職者数と比率

社 名 [国]	2010年3月		2011年3月	
	数	比率	数	比率
ブラザー工業[日本]	15名	2.0%	18名	2.3%
ブラザー販売[日本]	1名	1.9%	0名	0.0%
兄弟高科技(深圳)[中国]	14名	31.8%	17名	27.4%
兄弟工業(深圳)[中国]	2名	16.7%	7名	28.0%
珠海兄弟工業[中国]	9名	50.0%	9名	52.9%
兄弟機械(西安)[中国]	5名	26.30%	4名	17.4%
ブラザーインダストリーズテクノロジー(マレーシア)[マレーシア]	5名	13.5%	6名	24.0%
ブラザーインターナショナルコーポレーション(U.S.A.)[アメリカ]	55名	36.7%	53名	34.4%
ブラザーインターナショナル(ヨーロッパ)[イギリス]	6名	15.4%	7名	16.7%
ブラザーU.K.[イギリス]	15名	50.0%	14名	45.0%
兄弟(中国)商業[中国]	7名	21.9%	7名	31.8%
ブラザーインターナショナル(ドイツ)[ドイツ]	1名	7.1%	1名	7.1%
ブラザーフランス[フランス]	8名	33.3%	9名	36.0%
ブラザーインダストリーズ(ベトナム)[ベトナム]	7名	16.7%	9名	20.4%

女性管理職比率の推移(ブラザー工業)



従業員とともに

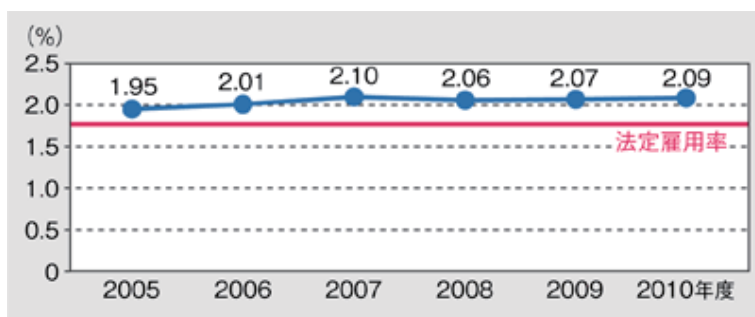
多様な人財の確保

多様な人財を確保するために

障がい者の雇用推進と活躍支援

ドイツ・フランス・日本では、一定の障がい者雇用率を企業に義務付け、例えば日本では一定規模以上の企業に総従業員数の1.8%以上の障がい者雇用が法律で定められています。また、中国では法定雇用率はないものの、障がい者雇用促進の協力金制度を設けている自治体もあります。ブラザーグループでは、各国・地域の状況に応じて障がい者の雇用を推進し、2010年度におけるブラザー工業の障がい者雇用率は、法定雇用率を上回る2.09%となっており、それぞれの障がいを持つ従業員が適性・能力に合った職種で活躍しています。

障がい者雇用率の推移(ブラザー工業)



ブラザー工業では、「ブラザーグループ グローバル憲章」の「行動規範」にある「個人に対する信義と尊敬」にのっとり、障がいの有無に関わらず、従業員同士が理解を深め、連携を強化して個々の能力を最大限に発揮できる職場環境をつくっていく方針を引き続き展開しております。特に2010年度は、ブラザーグループのグループ子会社である株式会社ビートップスタッフと協同して、障がいを持つ従業員が円滑に就労できるよう客観的な立場で助言・指導を行う社内ジョブコーチを育成し、支援を進めてまいりました。

社内ジョブコーチは定期的に職場を訪問して、障がいを持つ従業員・職場メンバーと面談し、課題改善に向けての提案を実施し、加えて障がい者自身がどうしたらよりよい職場づくりができるかをテーマにしたディスカッションや障がい特性に関する勉強会などを開催しています。また、外部の専門機関と連携し、社内ジョブコーチと職場のメンバーと人事部が連携して、障がいを持つ従業員の職場適応や障がい者一人ひとりの能力に合わせた成長とモチベーションの形成を支援する活動も行っております。

今後も、障がいを持つ従業員が貴重な戦力として活躍できるような職場環境づくりはもちろん、障がいの有無に関わらず、より働きがいのある会社になるよう取り組んでまいります。

従業員とともに

多様な働き方の支援

多様な働き方を支援するために

各自のライフスタイル選択を支援する制度を制定

ブラザーグループでは、従業員が多様なライフスタイルを選択できるよう、各国・各地域の法律、労働環境、従業員の状況を踏まえ、勤務体系に柔軟性を持たせるなど、個人の事情に合わせた働き方を可能な限り支援しています。

例えば、少子高齢化が問題となっている日本では、育児や介護を支援する企業内制度の充実など、家庭と仕事の両立を可能にする施策が求められています。そこで、ブラザー工業では、育児・介護休職制度や短時間勤務制度など、育児・介護と仕事の両立を可能にする制度の整備を進めてきました。

2006年9月には、制度の利用期間を拡充し、育児のための短時間勤務を小学3年生の3学期末まで、介護休職・介護のための短時間勤務を通算3年間に延長できるよう変更しました。2009年度には、37名（男性2名）が、2010年度は44名（男性10名）が育児休職制度を利用し、2007年度から2010年度までの育児休暇取得者職場復帰率は100%となっています。さらに、外部講師を招き、管理職を対象にした「タイムマネジメント講演会」を実施するなど、両立支援ができるような環境整備を進めております。

ワーキングマザーの自主的な交流・発信活動

ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を目指す“Brother Mothers”

仕事への情熱・愛着を持ちながらも、育児や家庭の両立に悩むワーキングマザーをとりまく環境整備は、社会的な課題です。こうした現状を少しでも改善しようと、国内のブラザーグループのワーキングマザー有志が集まり、2006年に“Brother Mothers”（以下、マザーズ活動）を立ち上げました。

これは、ワーキングマザーがネットワークを形成し、各部門やグループ会社に点在する従業員が情報・課題を共有しながら、仕事・育児・家庭をバランスよく両立させる工夫やヒントを見いだしたり、会社に新たな制度を提案するなどして、より働きやすい風土を醸成しようというものです。

マザーズ活動では、仕事と育児を両立するための情報や体験談を発信する「Mothers'ブログ」、毎月開催する「持ち込みランチによるオフ会」などを通じて、交流や意見交換を行っているほか、各部門で企画中の子育て層を対象にした商品開発の調査などにも協力しています。

また2010年度は労働組合とマザーズ活動に参加しているメンバーが協同して、労働協約改善に向け、ワーキングマザーの現状を踏まえた意見を提案し、育児休職期間の一ヶ月延長と、待機児童となった場合の例外事項追加が実現されました。

今後もマザーズ活動を通じて、実情に合った会社制度になるための情報の提供はもちろん、妊娠・出産期に限定せず女性が長く働き続けるような母性健康管理推進や、優秀な女性技術者が長期的に充実したキャリアを形成できるような提案を続けてまいります。



毎月開催している「持ち込みランチによるオフ会」

従業員とともに

多様な働き方の支援

ボランティア活動の推進

ボランティアに取り組む従業員を支援

ブラザーグループは「グローバル憲章」の「基本方針」の中で、地域社会への貢献について考え方を定め、事業展開する国・地域でよい企業市民となるよう、さまざまな活動に取り組んでいます。また、ブラザーグループの従業員が実践する自発的なボランティア活動を積極的に応援することで、間接的に地域社会に貢献したいと考えています。こうしたなかブラザー工業は以下のような施策を通じて、ボランティアに取り組む従業員を支援しています。

- ・ 全従業員を対象とした「ボランティア休暇」制度の実施
- ・ ボランティア活動保険の費用負担
- ・ 従業員ボランティアチームの育成とチームによる社会貢献活動の推進
- ・ ボランティア活動で地域社会に貢献している従業員を表彰する「ボランティア表彰」の実施

2010年度は、以下の3つのテーマに沿った活動に取り組む従業員ボランティアチームの育成を進め、各チームが企画する従業員参加型の社会貢献活動を実施しました。

- ・ 環境知識の習得など、環境啓発活動
- ・ モノ創りの楽しさを地域の子どものに伝える社会教育活動
- ・ ミシンを使った手作りのプレゼントで難病の子どもたちを支援する活動



難病の子どもたちに手作りのプレゼントを贈るボランティア活動

また「第3回ボランティア表彰」が実施され、77名の個人と7つのチームが表彰されました。表彰式では、会社を代表してブラザー工業社長の小池から賞状が渡され、これまでの活動への感謝と今後のさらなる活躍に向けた期待と励ましの言葉が贈られました。また、社内イントラネットに開設したWEBサイト「ボランティア応援WEB」に受賞者の活動を紹介し、従業員にボランティア活動の意義や楽しさを発信しました。

従業員ボランティアチームによる東日本大震災復興支援の取り組み

2011年3月に東北地方を襲った東日本大震災に対し、従業員が広く参加できる復興支援活動を検討するため、有志従業員による検討チームが立ち上がりました。検討チームでは、地域の災害支援ボランティア団体と連携した支援物資の収集活動、被災地で必要となるぞうきんをミシンで作る活動、被災地から愛知県に避難されている方々の交流を図る活動など、広く従業員が参加できる活動を検討しました。

2011年5月には、愛知県内の6つの工場支援物資収集活動が実施されました。4日間の活動期間中、ブラザーグループの従業員約300人が参加し、タオルや春・夏の新品衣料品など、段ボール75箱分の支援物資が集まりました。衣料品は、地域のボランティア団体を通じて宮城県の被災地に送り届けられ、タオルは引き続き従業員の協力で雑巾にして被災地に送り届けられる予定です。

こうした取り組みを通じて、ブラザーグループの中で、社会や他者に貢献しようという気持ちを持つ従業員が少しでも増え、ボランティアの輪が広がっていくことを目指しています。



支援物資収集活動で、支援物資を提供する従業員

従業員とともに

各地域での人財育成

グローバルな人財育成に向けて

さまざまな能力の発揮と多様性、チャレンジを重視した人財育成

ブラザーでは、「ブラザーグループ グローバル憲章」の「従業員」の項目にも示されているように

- (1)従業員の持つ多様性の尊重
- (2)従業員による、さまざまな能力の発揮
- (3)チャレンジングな仕事の提供

を重視しています。そして各国、各地域、各事業に則した人財育成と関連制度の充実を図ることが、従業員の長期にわたる才能・スキルの発揮に結びつくと考え、育成環境の整備とさまざまな制度の構築を進めています。

グローバル開発を実現するため、開発分室でプロ人財を育成【台湾】

派生仕様モデルの開発を担う、台湾の技術者育成を加速

グローバル化を考慮しつつ地域性にも配慮した製品をいち早くお届けするには、生産現場で派生モデルや各種仕様を開発・生産できることが効率的です。家庭用ミシンや刺しゅう機などを扱うP&Hカンパニーでは、この考えのもと、生産拠点である台弟工業股份有限公司（以下、台弟工業）に開発分室を設け、日本の開発部門と連携しながら開発技術者の育成に力を注いでいます。

具体的には、台弟工業で採用した設計者を、海外トレーニー制度を活用してブラザー工業のP&Hカンパニー開発部に派遣し、製品プロジェクト研修を行っています。あわせて台弟工業の開発分室でもエンジニア教育やミシン構造勉強会を毎週実施しています。

さらに、技術者相互のコミュニケーション力向上のため、台弟工業のトレーニーが講師となってブラザー工業の若手社員に中国語教室を毎週2回開催するなどの取り組みも行っています。

P&Hカンパニーは製品のグローバルな開発体制を強化するため、現地技術者の開発能力の向上に、継続的に力を注いでいきます。



台弟工業開発分室でのミシン構造教育



台弟工業のトレーニーによるブラザー工業社員向けの中国語教室

従業員とともに

グローバル人財育成

グローバルな人財育成に向けて

事業発展の鍵は、国内外従業員の人財育成と人財交流

グローバル化が進む中、ブラザーグループはグローバルでの人財育成と交流が事業発展の鍵を握ると考え、ブラザーのDNA継承やマネジメント能力の向上を目的とした研修、グローバルな人的交流の促進などに取り組んでいます。

取り組みの一環としてこれまでに、マネジメントを任せられる中国現地従業員を育成するための研修の日本および中国での開催、日本の若手従業員を対象とするトレーニー(訓練生)の海外派遣など、早期に複数の国で経験を積む制度を実施しています。

今後も、各国・各地域の人財育成のための計画やニーズなどの情報を、独自の人事情報システムを活用してグループ全体で共有し、グローバルに計画的・長期的な人財育成を進めていきます。

次代を担う現地幹部人財の育成

中国で幹部候補生のリーダー研修を推進

ブラザーグループは「真のグローバル化」に向け、海外拠点の人財育成を重要課題と位置づけています。2010年度は、中国の生産拠点(シンセン、珠海、西安)で、幹部候補生に向けたマネジメント研修を、重点的に実施しました。

5月に実施された、シンセンでの「グローバルマネジメントセミナー」では工場のよりいっそうの自立化を視野に、製造・IT・品質保証・購買・人事など各部門の代表者が、リーダーシップとビジョンについて理解を深めました。

8月には、西安で中間管理職を対象に「ミドル層が組織を率いるために重要なマネジメント行動」について研修を行い、行動計画書を作成しました。

さらに、2011年3月～4月には、上司と部下が相互にコミュニケーション力を高め、信頼関係の構築を図るための研修を実施しました。

今後も中国の生産拠点では、研修を実務につなげ、学んだことを日常の行動として昇華できるよう、プログラムの質を高めながら「誇りにあふれた従業員」の育成を目指します。



リーダーシップを学ぶ中国の幹部候補生

従業員とともに

グローバル人材育成

刺しゅう機の販売促進活動を通じてグローバル人材を育成

現地ディーラーと一体となった新製品のPRキャラバン

家庭用ミシンや刺しゅう機を扱うブラザー工業のパーソナル・アンド・ホームカンパニー（以下P&Hカンパニー）は、世界市場で活躍できるプロ人材の育成に力を注いでいます。その一環として、2010年度は、職業用刺しゅうミシンの最高機種PR-1000（海外向け）の発売を機に、現地販売会社と一体となって営業活動を行う「PRキャラバン」に若手従業員を派遣しました。

PRキャラバンは、8月にアメリカでの発売を皮切りに、ヨーロッパ・南アメリカ・アジア各国で、ディーラーやお客様を集めて講習会や刺しゅうビジネスのセミナーを開催。PR-1000の高い生産性や使いやすいタッチスクリーンなどをアピールするとともに、刺しゅうビジネスのポイントなどを説明しました。

キャラバンに参加した従業員は、現地の代理店・ディーラー・お客様とのふれあいを通じて、文化・慣習の多様性を肌で感じながら多くのことを学びました。そして、潜在ニーズの大きなイスラム文化圏で「刺しゅう機の新たな価値提案」ができたことに確かな手ごたえを感じています。PR-1000は所期の販売目標を大幅に上回り、PRキャラバンはプロ人材の育成とともに販売促進の点でも大きな成果をもたらしました。



ディーラーやお客様を前にPR-1000の魅力をアピール

グローバル採用“第二期生”が入社

海外の新卒大学生がブラザーグループの仲間に

2010年10月、前年同月に続いて、中国などの大学・大学院卒業者を対象とする「グローバル採用」の新入社員として、10名がブラザー工業に入社しました。

ブラザーグループは、多くの従業員が国籍を問わず世界中で活躍する「真のグローバル化」を目指しています。その一環として、生産拠点においてモノ創りのキーパーソンとなる、現地出身の人材を育成するための「グローバル人材の採用・育成」に力を注いでいます。

グローバル採用の第二期生として入社した彼らの多くは、内定後から日本語の学習をスタートしています。7月からの2カ月間、中国・大連で日本語集合研修に参加し、日本での生活に支障のないレベルを目指して、日本語を学んできました。そして、10月1日の入社式で、社長の小池や人事部長から祝辞と激励のメッセージを受け、ブラザーグループの一員としてのスタートを切りました。

彼らは日本の文化・慣習に触れると共に、入社基礎研修を通じてブラザーグループ従業員として必要な知識を学び、2011年1月から開発部門を中心に各部署に配属されました。

ブラザーグループでは、グローバル採用の実績を重ねる過程で、研修体系・生活サポート・異文化交流などのノウハウをさらにレベルアップし、グローバル人材の育成プログラムを強化・充実していく方針です。



中国などの大学を卒業して研修中の新入社員

従業員とともに

労働安全衛生

グローバルな安全・防災の仕組みづくり

安全第一を基本方針としてマネジメントシステムを構築

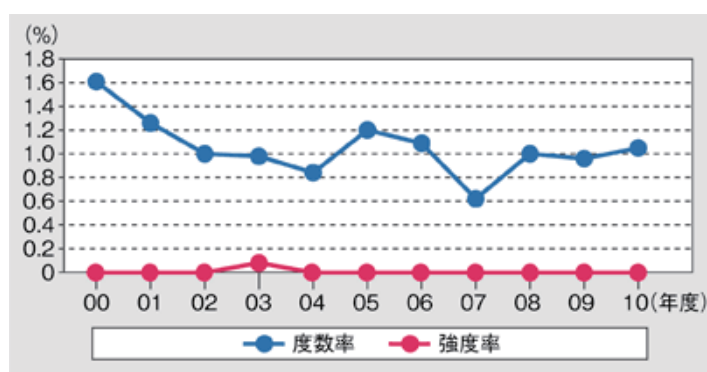
ブラザーグループは「安全防災方針」の中で、「『安全第一』は、すべての活動の基本である。すべての従業員が安全に安心して健康に働ける快適職場となるように努めると共に、安全文化を定着させる」という「安全防災の基本方針」を定め、ブラザー工業の中央安全防災委員会を中心に工場や職場における業務上の災害や疾病の撲滅に取り組んでいます。

2005年度からは労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)の導入を開始。2006年度にはブラザー工業の星崎工場が名古屋市で初めて中央労働災害防止協会からOSHMSの認定を取得しており、その適格認定基準に沿った活動を国内の生産拠点やグループ会社に展開しています。



グローバル安全防災大会

労働災害度数率・強度率推移(ブラザー工業)



度数率 = (業務上労働災害による死傷者数 / 延実労働時間数) × 100万

強度率 = (業務上労働災害による延労働損失日数 / 延実労働時間数) × 1000

従業員とともに

労働安全衛生

海外の生産拠点における安全衛生・防災活動の自立

中央安全防災委員会事務局であるブラザー工業人事部安全防災グループが、2007年度より3年間で海外の生産拠点の安全衛生・防災水準を国内と同水準にするという目標を設定し、各生産拠点の安全衛生・防災担当者の協力を得ながら活動を推進してきました。

安全衛生面では、各工場における活動の基本となる「安全防災方針」の制定、体制づくり、PDCAの基となる活動計画の作成のほか、安全衛生パトロール、災害発生時の再発防止対応、職場の潜在的リスクを計画的に低減する「リスクアセスメント活動」、KY(危険予知)活動や安全ルール集の配布などを実施してきました。

その結果、2006年度には69件発生していた労働災害を、2010年度は20件まで減少することができました。

防災面では、防災組織の整備、防災訓練(避難訓練)や消火器・消火栓による消火訓練の指導、心臓マッサージや人工呼吸などの救命講習、防火設備点検などを実施しました。

また火災等の災害発生時への対応をまとめた「ブラザー海外工場防災指導マニュアル」を新たに制定し、災害発生の防止および万が一火災等の災害が発生した場合でも、その被害を最小限にとどめるための体制作りや訓練を行うことができました。

2010年度からは、PDCAの中でもC(check:評価)とA(act:改善)の実施に重点をおき、各工場で自主的に内部監査を行い、改善に結びつけることができるよう支援を行っていくとともに、今後新たに設立される工場での安全衛生活動が滞りなく始めることができるよう、支援活動を行っていきます。

また2008年度から、ブラザー工業の瑞穂工場に海外生産拠点の安全衛生関係者を集めて開催している、「グローバル安全防災大会」も3回目をむかえ、災害発生の少ない工場、あるいは安全活動が優秀な工場の表彰や各工場の活動報告会、安全衛生講習を実施し有意義な大会となっています。



消火訓練



救命講習

従業員とともに

労働安全衛生

心身の健康維持・増進

グループ全体の健康維持・増進を目指して

従業員の健康管理は、活力ある組織づくりにおいて重要なテーマです。ブラザーグループでは、各国、各地域の事業所において産業医を配置もしくは医療機関と提携して、従業員の健康維持・増進に取り組んでいます。

メンタルヘルスの予防・早期発見・疾患後ケアの仕組みづくりに注力

ブラザー工業では、2005年度に「ブラザーメンタルヘルス計画」を策定し、予防対策を中心に活動を実施してきました。予防対策としては自分自身のストレス状態を知るセルフケア教育、部下の心の健康状態を把握し、変化があった場合いち早くその変化に気づき対応が取れるようにするためのラインケア教育を中心としたメンタルヘルス教育の実施があり、メンタルヘルス不調者が発生した場合には面談対応や復職支援などを行うなど、基本的なメンタルヘルスの予防体系が5カ年でほぼ構築できました。

今後もメンタルヘルスケア教育や面談、復職支援は継続して実施していきますが、将来にわたってさらに不調者を減らすためには、メンタルヘルス不調者が発生しにくい企業風土を作っていく必要があります。そのために人材育成やキャリア開発、仕事の達成感を得ることのできる職場づくりなど、人財戦略モデルに基づいた「第2期5カ年計画」を策定し、2011年度より推進していきます。

また、疾患後も十分なケアができるよう、産業医、保健師の増員や、復職のための支援活動など、対応力強化に努めています。

その他、海外出向者及びその家族への健康面談、海外出向者・出張者を対象とした健康講習の実施などに取り組んでいます。

従業員とともに

グローバル憲章の共有

すべての活動の礎に——「ブラザーグループ グローバル憲章」の浸透

全従業員で共有するために積極的な浸透活動を展開

ブラザーグループ「グローバル憲章」(以下グローバル憲章)は、グループ各社とグループ従業員の日々の意思決定と実行に関する基本方針と行動規範を定めたものです。グループ全従業員の活動の礎として共有されていることを目指し、継続的な浸透活動に取り組んでいます。

2008年4月に改訂したグローバル憲章を全従業員で共有していくための環境づくりとして、携帯用のポケット版グローバル憲章(26言語)とポスター、解説DVD(5言語)を各拠点に配布しています。また、イントラネットで内容の説明や経営層の思いなどを繰り返し発信するとともに、どのようなケースで自らの「行動」につなげるかを具体的に考えることができるように、各組織での実践状況や他社事例、更には、独自のケーススタディー集を共有しています。

2010年度の主な活動は、経営層が従業員とグローバル憲章を直接語り合うことを宣言し、その結果対話が世界中で30回以上実施され、内容も社内WEBサイトを通じて8言語で共有されました。加えて、社長の小池は、「Terry's Video」と呼ばれるメッセージ動画の配信を、字幕対応を含めた3言語で合計15回行ない、多くの従業員はこの動画を見ながらグローバル憲章について議論し、理解を深めました。

一方、管理職もグローバル憲章に基づいた行動を部下に約束し、その率先垂範に務めました。また、グループ各社で任命された約300名の「グローバル憲章共有リーダー」とともに、各組織に合った計画を立て、事例を使った研修を中心とした活動を進めました。



26言語に翻訳し、全世界で共有



社長、執行役員と従業員が語り合う場(グローバル)

従業員とともに

グローバル憲章の共有



各拠点で行なわれている研修

また、昨年度に引き続き、グローバル憲章の共有度調査を実施し、グローバルに70の拠点が調査に参画、約14,000名の従業員から回答がありました。

グループ全体の調査結果として、グローバル憲章を「理解している」「行動している」と答えた従業員の割合が昨年度を上回っており、グローバルでの共有が着実に進んでいると考えています。

BIC(カナダ)新イントラネットを導入

イントラネット従業員との繋がりを深める

2010年7月、ブラザーインターナショナルコーポレーション(カナダ)(以下、BIC(カナダ))は、従業員向けに新しくイントラネットを開設しました。今回の取り組みは、業務プロセスを簡素化し、従業員の業務効率向上、組織への関わりと協調の促進を狙いとするものでした。

新しいイントラネットは、従業員同士で情報の交換や共有ができる機能を大幅に改善させることで、従来と比べて社内コミュニケーションを大きく充実させることができました。これによりBIC(カナダ)では、グローバル憲章に掲げる基本方針の一つである「さまざまな能力を発揮できる職場環境とチャレンジングな仕事への機会を提供する」を実践することができたと考えています。

具体的には社内文書を探すための時間の短縮、社内コミュニティの構築、情報の電子化に伴い時間と用紙コストの削減、意見箱を通じて得たコスト削減や新しいアイデアの共有など、様々な点で大変便利になりました。また効率的に必要な情報を検索できるようになり、また同じ情報源から統一された情報を手に入れることができるようになりました。BIC(カナダ)はこれにより、これまで以上に一体感を持ったチームとして、効率的に業務を推進できるようになりました。



新イントラネットのトップページ

従業員とともに

従業員の「誇り度」向上推進

「ブラザーらしさ」を継承していくために

「チームブラザープロジェクト」

若年層従業員が徐々に増加する中、「ブラザーらしさ」をどう継承していくか、また、従業員の「誇り度」を向上させ、やりがいを持って働ける環境を維持するにはどうすればよいのか、これらの課題に取り組むために、ブラザー工業は2008年度「チームブラザープロジェクト」を立ち上げました。

このプロジェクトでは、従業員意識調査を通じ「誇り度」を向上させていくことを目標とし、活動を全社展開しています。従業員意識調査は、ブラザー独自の調査の仕組みですが、部門ごとに「誇り」に影響を与える要因を分析し、その結果から部門としての年間目標を掲げ、改善を継続し進めている点が大きな特徴です。



「チームブラザープロジェクト」勉強会

「誇り」を実感できる会社を目指して

「チームブラザープロジェクト」では、活動を推進する役割を担う、ファシリテーターが全部門より選抜され、各部門での取り組みを進めると共に、全社月例会で情報共有を図っています。この月例会では、従業員意識調査の結果を踏まえた改善活動の共有や、各種事例をもとにしたディスカッション、会社業績を学ぶ機会などを設けています。

従業員の声を活かしたこうした活動は、グローバル憲章に示された「従業員にとって誇りのもてる企業」の実現に近づくものと捉え、今後もひとり一人が「誇り」を実感できるよう、取り組みの進化を図っていきます。

従業員とともに

従業員の「誇り度」向上推進

働きがいのある会社ランキング、19位にランクイン

ブラザー工業は、2年連続で「働きがいのある会社」に選ばれました

従業員の「誇り」を高めること、それは別な表現では、従業員ひとり一人が「働きがい」を持って仕事に当たっている組織を作ること、とも言えます。

ブラザー工業はGreat Place to Work® Institute Japan(以下、GPTWジャパン)による「働きがいのある会社」ランキングで19位※に入りました。ベストカンパニー30社に選ばれたのは昨年に続いてのことですが、今年度は昨年約2倍、151社のエントリーの中での上位へのランクインとなりました。

この、「働きがいのある会社調査」はGPTWジャパンが参加企業にアンケートを実施し、その評価を行う調査ですが、「従業員へのアンケート」と「会社へのアンケート」を併用し、かつ従業員の声をより重視(評価の重みが全体の2/3となります)したユニークな調査です。

ブラザーで高い評価となった項目(ベストカンパニー30社の平均を上回る主な項目)は、以下のとおりです。

- 「温かい雰囲気のある会社である」
- 「この会社は地域や社会に貢献している」
- 「専門性を高めるための研修や能力開発の機会がある」
- 「この会社は悪意のないミスに対して寛容である」
- 「仕事と生活のバランスをとるように奨励されている」

ブラザーグループは「CSR経営」を推進し、ステークホルダーの皆さんからの信頼される企業となることを目指しています。上記で高評価となった各項目は、私たちがお客様や社会に向け、継続的に信頼を積み重ねていくためにも大切なことと考えています。今後もこうした客観的な評価によって、自分たちの取り組みを振り返りながら、よりレベルの高い「働きがいのある会社」を、そして、「従業員にとって誇りの持てる会社」を目指していきます。

※2011年 第5回 日本の「働きがいのある会社」ランキングについては、こちら(<http://www.hatarakigai.info/ranking/>)でご覧いただけます。
(「GPTWジャパン」のサイトへリンクします。)

※評価方法など詳しくはこちら(<http://www.hatarakigai.info/process/index.html>)で確認できます。(「GPTWジャパン」のサイトへリンクします。)



ベストカンパニー30社に送られた認定のロゴ

ビジネスパートナーとともに



ブラザーグループは、お客様に優れた価値を迅速に提供するために、お取引先と常に公平・公正な取引を行い、相互信頼関係を築いて成長しあうことを目指します。

CSR調達の推進

- ・お取引先とともにCSR調達を推進
- ・調達方針、CSR調達基準
- ・CSR調達の推進に向けベトナムで勉強会を開催

お取引先の声

- ・ブラザーグループとの相互成長に向けて
- ・お取引先から

ビジネスパートナーとともに

CSR調達の推進

お取引先とともにCSR調達を推進

「調達方針」と「CSR調達基準」を公開

ブラザーグループは、部品・材料を調達するお取引先の皆様にCSR調達の考え方を共有していただくために、2008年5月、WEBサイトで「調達方針」と「CSR調達基準」を公開しました。これは、2001年度から取り組んでいる、環境に配慮した部品、材料を優先的に購入する「グリーン調達」を、さらに人権・労働、安全衛生、公正取引・倫理、品質・安全性、情報セキュリティ、社会貢献などの分野に広げたものです。また、ブラザーグループではCSR調達説明会とCSR勉強会を開催して、お取引先のCSR活動推進を支援しています。

調達方針

- ・ すべてのお取引先に対して、公平・公正な取引を行います。
- ・ 活動する国や地域における関連法規、規則を順守し、お取引先と相互信頼関係を築いて、成長し合うことを目指します。
- ・ 地球環境に配慮したグリーン調達を推進し、製品のライフサイクルを通じた環境への負荷を低減します。
- ・ あらゆる場面でお客様を第一に考え、優れた品質と適正なコストの追求に努めます。

CSR調達基準（お取引先へのお願い）

- ・ すべての人の基本的人権を尊重し、不当な労働の強制、児童就労などは行わないでください。
- ・ 従業員の安全と健康を確保し、安全で働きやすい職場環境づくりに取り組んでください。
- ・ 地球環境への配慮に前向きに取り組んでください。
- ・ 関連法規、規則を順守し、公平・公正で最高度の倫理感を持った取引を行ってください。
- ・ お客様に安全かつ優れた品質の製品をお届けするための仕組みづくりに、取り組んでください。
- ・ 情報管理体制を構築し、個人情報、機密情報を、適切に管理してください。
- ・ 地域社会に対する社会的・経済的・文化的責任を可能な限り分担することにより、よき企業市民となるよう努力してください。

▶ 英語版 調達の方針・基準

<http://www.brother.com/en/csr/partner/purchase/index.htm#02>

▶ 中国語版 調達の方針・基準

<http://www.brother.com/cn/csr/partner/purchase/index.htm#02>

ビジネスパートナーとともに

CSR調達の推進

CSR調達の推進に向けベトナムで勉強会を開催

お取引先20社とブラザー従業員がCSR調達にかかわる課題などをディスカッション

2010年10月、ベトナムの生産拠点であるブラザーインダストリーズ(ベトナム)(以下、BIVN)で、第2回の「CSR調達勉強会」が開催されました。現地のお取引先20社25名とBIVNの調達担当者5名が、CSR調達への理解を深めるためのレクチャーを受けたあと、それぞれのCSR活動の現状把握や課題の認識、今後の取り組みの方向性などを語るグループディスカッションを行いました。

ブラザーグループでは、CSR経営の一環として部品・材料を調達するお取引先に対し、CSRにかかわる調達基準(2008年5月公開)を提示し、その順守を要請する「CSR調達」の推進に力を注いでいます。

その目的は、お取引先が「グリーン調達(環境配慮)」に加え、人権・労働・安全衛生・公正取引・企業倫理・情報セキュリティ・消費者保護・社会貢献活動などに積極的に取り組むことによって社会的リスクを回避し、新たな顧客獲得の機会を広げ、企業力を高めながらブラザーグループとともに成長を目指すことにあります。

ベトナムでは、2008年11月に開催したCSR調達説明会を皮切りに、CSRへの理解・実施状況などのアンケート調査や企業訪問を実施し、2009年9月には第1回のCSR調達勉強会を開催するなど、その理解と浸透に努めてきました。今回の勉強会では、特にCSRで重視されるコンプライアンス(法令順守)に対する認識や取り組みについて話し合うとともに、BIVNが自律的に勉強会を運営できるようスタッフの訓練にも力を入れました。

ディスカッションでは、「企業の継続的な発展にはCSRが不可欠であり、その推進には経営者のCSRに対する関心と行動が何より重要である」ことが各社共通の認識となっていることを確認できました。一方で、賃金・福利厚生・労働環境・労働時間など解決すべき課題が少なからず存在し、お取引先がCSR活動を進めるには、経営層と従業員との定期的なコミュニケーション活動が欠かせないこともわかりました。

今後は、お取引先から公開許可をいただいたCSR活動事例を他社にも紹介して課題解決に役立てるとともに、BIVN従業員のCSR活動のレベルアップやお取引先への積極的なアプローチを展開していくことを確認して勉強会を終えました。



ブラザー工業CSR調達担当者によるレクチャー



グループディスカッションで課題や今後の取り組みについて討議

ビジネスパートナーとともに

お取引先の声

ブラザーグループとの相互成長に向けて

CSR調達は世界的な潮流であり、その定着・浸透は、企業を取り巻く社会的リスクを回避し、新たな顧客獲得の機会拡大にもつながります。この主旨をご理解いただき、ブラザーグループとの信頼関係を基盤に相互成長を目指すお取引先から、多くの声が寄せられています。

お取引先から



地域社会に信頼される会社に

瑞穂精密(香港)有限公司 青山 純 様

地球環境に配慮した「グリーン調達」から始まり、「CSR調達」の推進により人権の尊重、安全な働きやすい環境作り、公正な取引のできる体制作り、品質の向上にこだわる職場作り、情報の保護など基本項目を目標テーマに決め、地道にコツコツと継続する「CSR活動」の取り組みにより、従業員とともに地域社会に信頼される会社になれると信じています。

これからも地球環境に優しいブラザー様の製品が、ますます社会に貢献されますことを期待し、弊社はそのお手伝いを通して社会に役立ってまいります。



人間力を高め、正直な会社経営

香港中央紙器工業有限公司 邱 敬東(キウジンドン)様

私どもは「企業の根幹は人である」「安心・安全」「環境への配慮」を理念に、企業市民としてあらゆるステークホルダーに対し、人権の尊重・環境への配慮・法令順守と倫理観を柱としたCSR活動を行ってまいりました。そしてブラザー工業様と活動を共にさせて頂き、認識を共有化させて頂く事で、活動が深化してきている事に大変感謝いたしております。これらの活動により、社員一人一人の人間力を高め、正直な会社経営をしていきたいと考えます。



CSR調達方針・調達基準のクリア

名実通達ベトナム株式会社 小関 徹 様

ブラザーグループのビジネスパートナーの一員としてブラザーグループの「調達方針」および「CSR調達基準」をひとつずつですが、クリアできるよう日々の取組みを継続していく事により、自然と従業員の中に「私達<Chung ta>の会社」という気持ちが育ってきています。そして、「おはよう・さようなら<Xin chao>の挨拶はもとより「ありがとう<Xin cam on>」「どうぞ<Xin moi>」の言葉が自然に出てくるようになりました。

これらがひいては、お客様に満足していただける製品を提供できる私達の会社の従業員の礎になることを期待しています。



Brotherに協力して邁進

珠海市佳達柯色包装材料有限公司 趙 軍(チョウ グン)様

ブラザーは百年の歴史を持つ企業グループです。その根底に豊かな企業文化があります。取引先と共生していくという理念に基づいて、ブラザーは共に成長する取引先を育ててきました。取引先側も、長期にわたる密接な付き合いによって、ブラザーの要望及び市場から求められている製品品質に対する要望を、より一層理解することができるようになりました。更に、ブラザーから頂いた各種の要求にもより速く対応することが可能となりました。我々はブラザーに認められた取引先であることを光栄に思っています。今後も引き続きブラザーに協力してまいります。

ビジネスパートナーとともに

お取引先の声

過去の掲載



常識の共通化と実行

オービー工業株式会社 **大村 達也様**

ブラザー工業様の「CSR活動」への参加を、光栄に思います。

CSRが目指す、「共通した社会的・道義的な責任を果たす」と言う、当たり前のことを当たり前にすることの難しさは、ISO活動の管理維持以上に、社員に対する「人間力」の育成という基本部分への会社教育と、管理の理念・方法を、あらためて考えさせてくれます。そして「常識の共通化と実行」こそが、「社会に信頼される会社の存在と継続」に繋がると信じます。



社内のチームワークを築き、従業員の技術と知識を高める

WIRE & METAL PRODUCTS (JOHOR) SDN. BHD. **ランディ ウォン ムン ロン様**

私どもは、ブラザー工業のパートナーとしてCSR活動に参加できることを大変感謝し光栄に思っています。この活動を通じて弊社の経営システムが改善され、高い品質と安全で働きやすい環境の維持、従業員間のチームワーク精神の構築、さらには従業員の技術・知識の向上にもつながると考えています。これらにより、従業員が自信を持って日々の業務に従事でき、社会に対しても責任を持つことができるのではないかと考えています。



弊社の企業理念に基づいたCSR活動への取り組み

Murata Electronics Singapore (Pte.) Ltd **小池 正敏様**

弊社（村田シンガポール）は、「一企業としての当社、従業員、顧客、他の取引先そして地域社会、それぞれの繁栄を目指す」、「互いに誇りを持ち信頼しながら成長し繁栄していく」という企業理念に基づいてCSR活動への取り組みを行っております。村田シンガポールは、引き続き地域社会に貢献し、環境保護のための企業責任を果たし、社員にCSR活動への参加を促すことに尽力してまいります。



ブラザーグループの取引先の一員として、CSRも積極的に推進

浙江方正电机股份有限公司 **張 敏(ジャン ミン)様**

CSR活動を提唱するブラザーグループとの交流を深めることで、企業の社会的責任の重要性を感じ取ることができるようになりました。ブラザーグループの取引先の一員として、「品質とサービスを持続的に改善し、かつ最もコストパフォーマンスに優れた製品を提供する」と同時に、CSR活動も積極的に推進しています。人を基本とする考え方、新しいものを創り出し続ける企業精神に基づき、今後もブラザーグループのサポートのもと、ブラザーグループと共に発展していきたいと思っています。

株主とともに



ブラザーグループは、株主からもたらされた資本を活かし、
継続して企業価値を高めるとともに、積極的な情報公開を行い、
株主との間に長期的な信頼関係を築きます。

IRコミュニケーション

・株主・投資家とのコミュニケーション

外部からの評価

・社会的責任投資株価指数

株主とともに

IRコミュニケーション

株主・投資家とのコミュニケーション

積極的な情報開示

ブラザーグループは、株主・投資家の皆さまへの情報提供の機会を増やし、最新の情報を分かりやすくお伝えすることによって、企業の透明性向上に努め、長期的な信頼関係を結ぶよう努めています。

機関投資家・証券アナリストの皆さまに対しては、社長自らが説明を行う決算説明会を年2回開催しているほか、積極的に個別訪問や取材対応を行っています。また、個人投資家の皆さまに対しては、証券取引所主催のIRセミナーなどで積極的に業績の説明などを行うとともに、各地の証券会社支店での会社説明会も行っています。2011年3月には新聞社主催の個人投資家向けIR説明会に参加し、社長自らブラザーの事業内容や戦略をご説明しました。

今後も、より多くの株主・投資家の方とコミュニケーションをとる機会を作り、積極的な情報開示を行っていきます。

ブラザー工業は、2011年6月23日(木)に、「第119回定時株主総会」を名古屋東急ホテル(愛知県名古屋市)において開催し、436名の株主の皆さまにご出席いただきました。本総会では、2010年度のブラザーグループの事業状況の報告や2011年度の業績見通しに関する説明を行い、議案審議では、多くの株主の皆さまからご賛同を得て、原案通り承認可決されました。また、総会終了後に、株主の皆さまが当社経営陣と直接対話する「株主懇談会」を開催しました。懇談会場内には展示ブースを設け、プリンティング機器、家庭用ミシン、通信カラオケなどの製品展示のほか、産業機器で加工された部品のサンプルや、ガーメントプリンターによって印刷されたTシャツなどを展示し、ブラザーの事業についてより理解を深めていただける工夫をしました。また、ブラザー工業が命名権を取得した名古屋市科学館プラネタリウム「Brother Earth(ブラザーアース)」についてもご紹介しました。

実際に製品を体験していただいたり、地域社会に対する貢献活動について説明を聞いていただいたりすることで、株主の皆さまと経営陣が直接コミュニケーションをとり、ブラザーグループについてより深くご理解いただくことができました。



第119回定時株主総会



株主総会終了後に行われた「株主懇談会」



担当者から ブラザーをより理解いただくために

ブラザー工業株式会社 コーポレートコミュニケーション部

市川 隆盛

株主・投資家の皆さまに直接ブラザーについてご説明する際は、会社の業績や戦略をできるだけわかりやすくお伝えすることを心掛けています。また、説明会の際には、皆さまからさまざまなご意見をいただきますが、少しでも多くの方にブラザーについて理解いただくとともに、皆さまから頂いたご意見をIR活動に生かしていきたいと考えています。

株主とともに

外部からの評価

社会的責任投資株価指数

構成銘柄に3年連続で採用

ブラザー工業は、2010年9月1日、モーニングスター株式会社の算出する「モーニングスター社会的責任投資株価指数 (MS-SRI)※」の構成銘柄に3年連続で採用されました。

近年、投資家は、従来の財務分析による投資基準に加え、社会的な公正さや企業倫理、地球環境や社会貢献などに対し、責任を果たしているかを投資基準として捉えるようになってきました。

このような社会的責任投資(SRI : Socially Responsible Investment)が成長する中、ブラザーグループはCSR経営を推進し、積極的な情報公開に取り組んできました。

ブラザーグループはこれからも、中長期的な視野に立ってグローバルなCSR経営を推進することで、さらなる事業の成長を目指すとともに、「Brother」を、お客様をはじめとするすべてのステークホルダーから信頼されるグローバルなブランドとして確立いたします。



▶「MS-SRI」のサイト

<http://www.morningstar.co.jp/sri/index.htm>

※「モーニングスター社会的責任投資株価指数」は、モーニングスター株式会社が算出する国内初のSRI株価指数で、国内上場企業約3,600社の中から、社会性に優れた企業と評価する150社を選定し、その株価を指数化したものです。
(記載されている情報は、2010年9月1日時点のものであり、予告なしに変更される場合があります。)

地域社会とともに



ブラザーグループは、所属する国や地域に対する貢献を常に意識し、地域社会に対する社会的・経済的・文化的責任を可能な限り分担することによって、よき企業市民となるよう努力します。

グローバルな社会貢献活動

- ・ブラザーグループ全体で統一感を持った社会貢献活動を推進
- ・東日本大震災など、社会影響の大きい案件への対応

日本での社会貢献活動

- ・“もったいない精神”で貸出機が第二の活躍舞台へ
- ・チャレンジ精神あふれる若手起業家を支援する「東海若手起業塾」

米州での社会貢献活動

- ・BIC(USA)「ユナイテッド・ウェイ募金キャンペーン」

欧州での社会貢献活動

- ・通院する子どもたちの笑顔のために(イギリス)
- ・試練に直面する子どもたちを支援するブラザーフランス
- ・ブラザーイベリアがフードバンク基金に車両を寄贈

アジア・オセアニアでの社会貢献活動

- ・シンガポールのストリートサッカー大会をサポート

中国での社会貢献活動

- ・台弟工業が「立体刺しゅう競技会」を開催
- ・中国・農村部の若い女性の縫製技能習得をサポート

地域社会とともに

グローバルな社会貢献活動

ブラザーグループ全体で統一感を持った社会貢献活動を推進

ブラザーグループでは、「所属する国や地域に対する貢献を常に意識し、地域社会に対する社会的・経済的・文化的責任を可能な限り分担することにより、よき企業市民となるよう努力する」という「ブラザーグループ グローバル憲章」の考え方に基づき、各国・地域の拠点でさまざまな社会貢献活動を行っています。またブラザーグループ全体でよりグローバルに統一感を持った社会貢献活動を推進するため、下記の3つの活動を中心に、各国・地域の拠点と連携してグローバルに展開しています。

(1)地球環境への配慮に関連した活動

(2)ブラザーグループの事業に関連した活動

(3)「地域」「人づくり(従業員を含む)」を意識した活動

2010年度の取り組み

2010年5月、ブラザーグループの環境活動を象徴するロゴ、スローガンとして「Brother Earth」を策定しました。ブラザーグループはこのスローガンに基づき、企業活動のあらゆる面で地球環境への配慮に前向きで継続的な取り組みを行っており、その一環として、環境保護団体の支援や従業員参加の森林保全活動などの環境社会貢献活動をグローバルに展開しました。

事業に関連した社会貢献活動としては、中国の農村部の女性にミシンや縫製技術の技能習得を支援する活動などを実施しました。また、子どもたちがグローバルなモノ創りを学べる活動として、ブラザー製品を活用した「モノ創り教室」を日本、マレーシア、シンガポールで実施しました。

「地域」「人づくり」を意識した活動としては、日本においては地域の活性化を目指す若手起業家を支援する「東海若手起業塾」への協賛を3年間継続して実施しています。またフランスでは国内外の恵まれない子どもを支援する活動などを実施しました。従業員のボランティア活動については、世界各地で開催されるがん患者を支援するボランティア活動に、日本・ニュージーランド・アメリカの各拠点の従業員がそれぞれ参加するなど、各国・地域の拠点と連携したグローバルに一体感をもったボランティア活動の推進も図りました。

地域社会とともに

グローバルな社会貢献活動

各国・地域の社会貢献活動事例(分野別)

活動分野	活動	活動拠点
地球環境への配慮に関連した活動	「Brother Earth」のスローガンに基づく、環境保護団体の支援や従業員参加の森林保全活動のグローバルでの実施	ブラザーグループ各拠点
ブラザーグループの事業に関連した活動	製品を活用した、モノ創り教室の実施	・ブラザー工業 ・ブラザーインダストリーズテクノロジー(マレーシア) ・ブラザーインターナショナル(シンガポール)
	農村部の女性にミシンや縫製技術の技能習得を支援	兄弟機械(西安)
「地域」「人づくり」を意識した活動	地域の活性化を目指す若手起業家を支援する「東海若手起業塾」	ブラザー工業
	NGO団体と連帯して国内外の恵まれない子どもを支援	ブラザーフランス
	がん患者を支援するボランティア活動への従業員参加	・ブラザー工業 ・ブラザーインターナショナル(ニュージーランド) ・ブラザーインターナショナルコーポレーション(U.S.A.)

東日本大震災など、社会影響の大きい案件への対応

2011年3月、日本で発生した東日本大震災による未曾有の災害に対して、ブラザーグループは、今回の地震により被災された方々への救済と被災地の復興に役立てていただくため、義援金として1億円を日本赤十字社へ拠出しました。またブラザーグループの従業員からも義援金が集められ、各国の赤十字社などへ拠出されました。日本では従業員ボランティアが中心となって、被災地で不足する物資の提供を従業員へ呼びかけ、収集した支援物資をボランティア団体を通じて被災地に届ける活動が実施されました。ブラザーグループは被災地の一日も早い復興を心より祈念するとともに、今後も一丸となって、必要な支援、協力を行っていきます。

地域社会とともに

日本での社会貢献活動

“もったいない精神”で貸出機が第二の活躍舞台へ

廃棄予定のファクスや複合機を整備して福祉団体などへ寄贈

日本の販売拠点であるブラザー販売は、2010年6月、お客様への貸出機として使われていたファクス（FAX-300/210シリーズ）、レーザー複合機（MFC-8820J）計162台を、市民活動団体や聴覚障がい者支援団体など72団体に寄贈しました。

これまでブラザー販売は、修理期間中にお客様に代わりにお使いいただく製品を貸し出してきましたが、物流事業者との連携を強化することで修理期間が大きく短縮され、貸出機の必要性が薄れてきました。その結果余剰となった貸出機は、社内での活用ニーズもなく廃却するしかなく状況でした。

「まだ十分に使えるのに、もったいない。廃却コストや環境への負荷も考え、他の道を探すべきだ」と考えた従業員が調べてみると、パソコンやプリンターを必要とする市民活動団体に寄贈するプログラムを運営しているNPO「イーパーツ」の存在が明らかになり、協力をさせていただくこととなりました。

そして2010年4月から1カ月間、イーパーツのWEBサイトで機器を必要とする団体を公募したところ111団体から応募があり、厳正な審査のうえ72団体に寄贈することになりました。

寄贈した貸出機の実備は、集中修理センターの「三重ブラザー精機株式会社」が行い、発送費用はブラザー販売が負担しました。

ブラザー販売では、来春以降、余剰貸出機だけでなく、販売店で展示されていた、製品なども整備して寄贈することでも、環境負荷の削減と社会貢献の両方を継続していく考えです。

▶「認定NPO法人イーパーツ」のWEBサイト

<http://www.eparts-jp.org/>



寄贈先で大活躍しているFAX

ファクスを寄贈された団体からの喜びの声



今まで古い機材を使用しておりましたので、大変ありがたいです。ファクスの電話機能が良く、土日を中心に集まる子どもたちが、「かわいいボタンだね」と声をかけてくれます。私たちの団体の目的である「子どもによる、子どものための国際協力」を促進し、子どもたちが積極的に活動できる礎を築くために、大切にに使わせていただきます。

特定非営利活動法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

地域社会とともに

日本での社会貢献活動

チャレンジ精神あふれる若手起業家を支援する「東海若手起業塾」

「東海若手起業塾」

近年、日本では多様な社会的課題の解決や地域の活性化などにビジネスとして取り組む若者が増えています。しかし、ビジネスを成長させるための事業経験や人的ネットワークが不足しているために、さまざまな経営問題に解決策を見出せないこともあります。

そこでブラザー工業は、2008年、本社所在地である東海地域の若手起業家を支援するために、起業家支援に取り組む国内の複数のNPOが協働で運営する「東海若手起業塾」への協賛を開始し、2010年3月までに合計13名の起業家を支援しました。この塾では、支援を希望する起業家に対して、事業戦略検討会を開催したり、消費者とともに製品開発する機会を提供するなど、それぞれの事業を成長軌道に乗せるためのさまざまな活動を実施しています。

2011年4月には、第4期の支援対象者が募集されました。6月12日に、公開選考会が開催され、起業家支援に実績のある川北秀人氏（IIHOE代表）ら5名の審査委員による選考の結果、5名の起業家が選考されました。起業家はその後、2012年3月の最終報告会までの9ヶ月の期間「東海若手起業塾」の実行委員会とともに、ビジネスモデルや事業戦略の質の向上を目指しました。



東海若手起業塾に参加した若き起業家

2010年度、「東海若手起業塾」の支援対象者と従業員との連携を推進

2010年度は、「東海若手起業塾」の実行委員会による支援に加え、起業家とブラザー従業員の連携を深めることにより、支援の幅を広げました。

2011年1月にはブラザー工業の従業員食堂で、従業員が支援対象起業家の商品を購入できる「チャレンジ! マーケット」を開催しました。実際に商品を購入した従業員は、お客様の立場で感じた商品の感想を起業家へフィードバックするなど、起業家の支援に協力しました。また「チャレンジ精神」や「お客様視点の大切さ」などをテーマに、支援対象起業家と従業員が意見交換をする「チャレンジ! フォーラム」を開催し、起業家と従業員あわせて約100名が参加しました。ブラザーの従業員にとっても、仕事への熱意やチャレンジ精神を学ぶ良い機会になりました。



チャレンジ! マーケット

支援対象起業家の成長に着実に貢献

2009年9月には、東海若手起業塾に第1期生として参加した静岡県浜松市の「ヘアサプライPeer」代表者佐藤真琴さんが、抗がん剤治療などによる女性の脱毛をケアするビジネスで、第8回日本商工会議所女性起業家大賞の、スタートアップ部門特別賞を受賞しました。また、2010年4月には、第2期生として参加した岩井万祐子さんが、経済産業省と農林水産省が共同で取りまとめた「農商工連携ベストプラクティス30」に選出されるなど、東海若手起業塾の支援の成果は、起業家の成長に着実につながっています。

地域社会とともに

米州での社会貢献活動

BIC(USA)「ユナイテッド・ウェイ募金キャンペーン」

従業員の協力のもと今年も成功

ブラザーインターナショナルコーポレーション(U.S.A.)(以下BIC(USA))のニュージャージーオフィスは、今年も4月に全米で最大の募金組織であるユナイテッド・ウェイのサマセット郡支部※¹(以下SCUW)を支援する活動を実施しました。

ニュージャージーオフィスが支援しているSCUWは、地域社会のさまざまな問題に対し住民の皆さんに解決策を提示することで、長期的、継続的な生活改善を進めることを目指しています。ブラザーは長年SCUWをサポートしており、従業員は日頃から、募金や地域社会の活動に対するボランティア参加など、様々な面で支援を実施しています。またこのような活動は、BIC(USA)のカリフォルニアオフィス、テネシーオフィスでも行われています。

毎回キャンペーン期間中には多くのイベントや抽選会が行われ、ニュージャージーオフィスで開催された「キックオフ・ブレックファスト」は、125人以上のブラザー従業員が参加し、朝食を楽しみながらSCUWとそのサービスを知るよい機会となりました。またサマセット郡フードバンク・ネットワーク※²を通じて地域社会に寄付する食料品を集める「フード・ドライブ」では、大型の箱19個以上の食料品が従業員により寄付されました。

今年はニュージャージーオフィスの7割以上の従業員から集まった総額約6万ドルの寄付に加え、BIC(USA)も同額の寄付を行い、全オフィス合わせて総額16万ドルをユナイテッド・ウェイと地元慈善団体に寄付することができました。



笑顔のユナイテッド・ウェイ委員

※¹ 地域社会のために食料・衣服・住居などの支援活動を行う非営利福祉団体に対して、そのサポートとなるよう活動資金を集め、提供することを目的とした非営利の資金調達機関

※² 貧窮者や貧窮者に食料援助を行うNPO団体に食料を配給する、民間の組織・施設

地域社会とともに

欧州での社会貢献活動

通院する子どもたちの笑顔のために(イギリス)

BIUK従業員ボランティアが児童保健センターを改装

欧州の生産拠点であるブラザーインダストリーズ(U.K.) (以下、BIUK) の従業員は、地域社会の一員として積極的にボランティア活動を行っており、2010年にはレクサム市(北ウェールズ)マイロル病院の「児童保健センター」で施設改善プロジェクトを実施しました。

このセンターは、発育やコミュニケーション能力などに問題を抱える5歳未満の子どもたちが医療サービスを受ける重要な施設ですが、内装まで十分に配慮するほどのゆとりはありませんでした。地域社会の課題解決と企業の社会貢献活動を結びつけている慈善団体Business in the Communityと協働で、BIUKの従業員が設備改善に取り組むことになりました。

10名のボランティアチームは、休日を利用して、休憩所を新たに設置したり、子ども用トイレに塗装を施したり、おもつを替えるためのベビールームを改装するなど、利用者の視点に立った改装を進めました。

中でも独創的な試みとなったのが遊戯室の改装です。ボランティアの誰もが「雰囲気は味気ない」と感じていた壁に、丘や樹木、水中の生き物などをやわらかな色彩で描きました。

遊戯室が明るく楽しい雰囲気に一変したことで、子どもや家族、児童保健センターの人々に非常に喜んでもらえました。チームリーダーのDerek Bowyerはこの活動に対して次のように語っています。「今回の活動は、ボランティアに参加した従業員自身にも大きな収穫をもたらしました。子供たちに喜んでもらえやがいを感じられたことはもちろんですが、各自のクリエイティブな部分が引き出され、型にとらわれない考え方をするようになったんです。BIUKのチーム育成、スタッフのモラル、やる気や自己啓発を促す素晴らしい機会となりました」。



ペインティングが施され以前(上)と
雰囲気が一変した児童保健センターの遊戯室(下)



活動に参加したBIUKのボランティアチーム

地域社会とともに

欧州での社会貢献活動

試練に直面する子どもたちを支援するブラザーフランス

4つのNGO団体と連帯して国内外の活動を支援

ブラザーフランスでは、CSR経営を進める上で社会への貢献を重要なテーマと位置付け、特に恵まれない子どもたちの救済に取り組む4つのNGO団体の支援に力を注いでいます。

団体の具体的活動は以下のとおりです。

Les Enfants de l'Ovale: フランスおよびアフリカで差別を受けている子どもたちを対象に、ラグビーをすることを通じて、勇気・寛大さ・思いやりなどを学びさまざまな境遇に順応できるようにする教育プロジェクトを推進。

A Chacun son Everest: フランス人女性として初めてエベレストに登頂した医師のクリスティーヌ・ジャンンさんが創設した団体で、がんや白血病などの重い病気を抱える子どもたちがハイキングや登山を通じて病気を克服し、通常の生活に戻ることが出来るようサポート。これまでに約2,000人の子ども達が自分の目標とする山への登頂を達成。

Parrain par 1000: 事情があって家族と離れて暮らさねばならず、それにより精神的なダメージを被っていたり、十分な教育を受けられない状況にあったりする子どもや若者たちを、後見人を立ててさまざまな危険や問題から守る活動を推進。

Cameleon: フランスと歴史的な関わりの深いフィリピンで、虐待や育児放棄などにより生活苦に陥っている子どもたちの教育支援や将来の自立に向けた支援活動を15年以上前から実施。

ブラザーフランスでは、これら4つのNGO団体の活動を継続的に支援し評価する組織として、社内に「連携プログラム従業員委員会」を設け、従業員にも積極的にこれらの活動を支援することを呼びかけています。その結果として、2009年度に引き続き2010年度も合わせて約6万ユーロ相当の資金や物資を寄付しています。

また、年に1度、従業員がCSR活動への理解を深め、社会や環境に関して責任ある行動を約束する場として、「ブラザーフランス・エコベンション」を開催していますが、その会議にはこれら4つのNGO団体も出席し、活動の意義や成果について報告が行われています。

このほかにも、ブラザーフランスでは、雇用におけるあらゆる差別の撤廃、長期雇用に向けたシニア世代の能力向上支援、障がい者雇用の促進などに力を注ぎ、2009年10月に国際的にも評価されている「優秀雇用者認定証」を取得しています。



「ブラザーフランス・エコベンション」でプレゼンテーションを行うNGO団体



がんや白血病と闘いながら目標の山に登頂を果たした子どもたち

地域社会とともに

欧州での社会貢献活動

ブラザーイベリアがフードバンク基金に車両を寄贈

社会支援活動委員会の記念すべき第一歩として

スペインの販売拠点ブラザーイベリアは、2010年3月、マドリードフードバンク基金に、食料を収集・配布するための車を寄贈しました。これは同社が2009年に設立した「社会支援活動委員会」が実施した最初の活動です。

ブラザーイベリアでは、社会貢献活動の一環として、スペイン国内で人道支援を行うNPOに対して金額に囚われず支援する方針を打ち出し、従業員から推薦する団体を募集しました。そして、3名の委員（従業員）で構成する社会支援活動委員会が、団体の活動内容を詳細に検討して支援する1件を選定しました。

選定基準は、一度だけの寄付に終わらせないこと、ユニークで魅力的な活動であること、そして何より従業員の共感を得られる感動的な活動であることです。こうして初年度の支援先に選んだのが、マドリードフードバンク基金への支援でした。

フードバンクは、約50年前にアメリカで始まり、品質に問題がないにもかかわらず包装不備などで商品価値を失った食料品を生活困窮者に配給する活動です。この活動はヨーロッパにも広がり、マドリードフードバンク基金では、さまざまな事情で満足に食事を十分に摂れない人々のために、600以上の慈善団体を通じて食料を無料提供しています。

ブラザーイベリアの社会支援活動委員会は、この活動に感銘し、マドリードフードバンク基金が寄付された食料を収集して受給施設へ配布するためのライトバンの寄贈を決定しました。ライトバンは長期にわたって使用され、車体にはブラザーイベリアが寄贈したことも記されるため、ブラザーの社会貢献活動を広くアピールできます。

社会支援活動委員会の一人は、「私たちにとってライトバンの寄贈は大きな決断でしたが、見返りを求めず来る日も来る日も食料を届け続ける寛大な人々の役に立てることに満足しています。これからも恵まれない弱者や子どもの側に立った人的支援が、素晴らしい成果をもたらすことを期待しています」と語っています。



マドリードフードバンク基金に寄贈したライトバン



ブラザーイベリア社長（後列右）と社会支援活動委員会のメンバー

地域社会とともに

アジア・オセアニアでの社会貢献活動

シンガポールのストリートサッカー大会をサポート

青少年の健全なライフスタイル育成にひと役

ブラザーインターナショナル(シンガポール)(以下、BIC(S))は、2008年から「AWWAストリートサッカー※大会」の開催・運営をサポートしています。

この大会は、社会的弱者を支援するNPO「アジア・ウーマンズ・ウェルフェア・アソシエーション(AWWA)」と、青少年の教育支援を社会貢献の重点活動と位置付けているBIC(S)の考えが一致してスタートしました。

BIC(S)は青少年の非行防止を重要な社会的課題ととらえ、若者に人気のあるストリートサッカーの大会を立ち上げ、スポーツを通じて公正・勇気・謙虚・尊敬などの精神を育んでもらおうと考えたのです。このアイデアには、政府高官・プロサッカーチーム・NGO・企業など多くの人々が協力を惜まず、シンガポールで最大規模のストリートサッカーの大会となっています。

3回目となる2010年の大会は、約60チーム・300人が参加し、10月の予選から11月の決勝戦まで1カ月半にわたりました。優勝チームが手にする“ブラザー・チャレンジカップトロフィー”をめぐる熱戦が繰り広げられ、BIC(S)は従業員の6割が運営ボランティアとして大会をサポートしました。さらに、BIC(S)従業員チームとシンガポールの国会議員チームの親善試合も行われ、大会はたいへん盛り上がりました。

BIC(S)の従業員たちは、運営のサポートを通じて、多くの人々と連携する充実感や地域社会との一体感を満喫しました。そして何よりも、プレーに熱中する子どもや若者たち、懸命に声援をおくる多くの家族の姿を目にして、このような大会に関わることに大きな誇りを感じています。

※ストリートサッカー：簡略化された設備やルールで行う、サッカーの一種



熱戦を繰り広げる選手たち。
1チーム5人が10分間の試合で得点を競います。

地域社会とともに

中国での社会貢献活動

台弟工業が「立体刺しゅう競技会」を開催

ブラザー刺しゅうマシンとモノ創りの楽しさをアピール

家庭用ミシンを生産する台弟工業股份有限公司(以下、台弟工業)は10月、ミシン販売代理店および国立高雄応用科技大学と共同で「立体刺しゅう競技会」を開催しました。

一般的な刺しゅうが平面的であるのに対して、立体刺しゅうはワイヤーなどを使ってコサージュやブローチなど立体的な刺しゅう作品を創作できます。今回の競技会は、従来の立体刺しゅうを超えるさらに独創的な作品づくりにチャレンジし、その魅力を多くの人々に広めるとともに、ブラザー刺しゅうマシンの活用機会を拡大しようとするものです。

この競技会は4月にインターネットや広報誌で参加者を募り、120名の中から9名の男性を含む40名(社会人20名、学生20名)を選抜。台弟工業が参加者に3日間の基礎講習を行い、ミシンを持っていない人のために20台以上の刺しゅうマシンを用意して、業務時間中なら社内ですべて使えるようにしました。さらに休日は、販売代理店で刺しゅうマシンを使える体制も敷きました。こうして参加者は約3カ月をかけて作品を制作し、10月2日に作品発表と審査が行われました。

そして、いずれ劣らぬ力作の中より、表現力・ミシンの活用力・完成度の観点から、立体絵画のような金賞作品、高度な技巧が光る銀賞作品、遊び心に満ちた銅賞作品が選ばれ、上位3名にはブラザー刺しゅうマシン「INNOV-IS 1500D」が贈呈されました。競技会の模様は台湾新聞でも報じられ、作品は一般公開される予定です。

今回の競技会は初の試みですが、台弟工業では今後もこうしたイベントを通じて、刺しゅうマシンの性能をアピールするとともに、モノ創りの楽しさを広げる機会を設けていきたいと考えています。



喜びの競技会入賞者を囲んで



立体刺しゅうの世界を広げる作品：左から金賞「瑶池荷香」、銀賞「快樂天使」、銅賞「寿司愛美味」

地域社会とともに

中国での社会貢献活動

中国・農村部の若い女性の縫製技能習得をサポート

ミシンの寄贈・奨学金・交流活動を通じて人材育成・自立支援に貢献

陝西(せんせい)省・西安市で工業用ミシンや工作機械を製造している兄弟機械(西安)有限公司(以下BMX)の従業員30名が、2010年8月28日、渭南(いなん)市の中職職業技術訓練学校である渭南培華芸術学校を訪問。5台の工業用ミシンの寄贈および以前に寄贈したミシンのメンテナンスを行うとともに、縫製学科の先生と学生にミシンに関する専門教育を行いました。

中国では、農村の若者が大量に大都市へ働きに出ています。働くために必要な技能が不足しているため就職できず、生活に困っている若い女性が少なくなく、社会問題となっています。このような課題の改善に向け、農村出身の若い女性を対象に、渭南培華芸術学校はさまざまな職業訓練を行っており、女性の技能育成拠点として国・省・市のそれぞれから認定を受けています。

BMXでは、自社の資源・技術を活かせる社会貢献活動として、NGOの国際計画中国本部(Plan China)の協力を得て、2008年に渭南培華芸術学校への支援・寄贈活動を開始。毎年、ミシンや補修用の部品などを寄贈するとともに、年間1万円の奨学基金を設けて毎年20名の優秀な学生を支援しています。

また、物的な支援だけでなく、定期的なミシンのメンテナンス作業や縫製に関する技能教育、BMXの工場見学などの交流活動を通じて双方の親交を深めています。

BMXの第一線で活躍している作業者の多くは農村出身です。それだけに、農村の若者たちの人材育成・自立支援は、地域に根ざした企業としての社会的責任であり、こうしたサポート活動ができるのはブラザーの誇りでもあります。BMXは、今後も継続的な支援・交流を通じて、一人でも多くの若者が社会で活躍できる環境づくりに貢献したいと考えています。



BMXが工業用ミシンを寄贈



農村出身の女性が縫製技能を学ぶ渭南培華芸術学校の縫製学科